

神戸市のデータ利活用の取り組み

2026.9.25

神戸市企画調整局

政令指定都市

(9行政区10区役所 2支所)

人口 1,493,102人 (政令市 7位)

面積 557.05km² (政令市 9位)

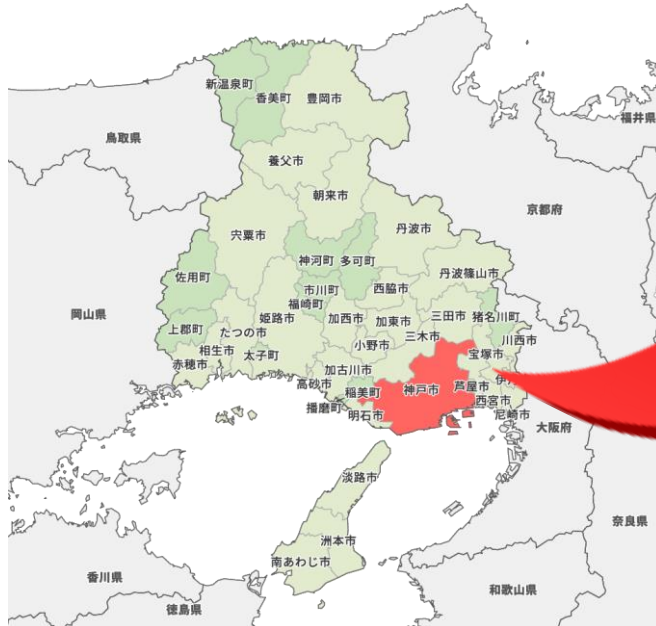
※2026年8月1日時点

職員数 21,533名

一般行政・企業会計部門 10,173名

教育 9,826名 (うち教員7,914名)

消防 1,534名 ※2025年4月1日時点

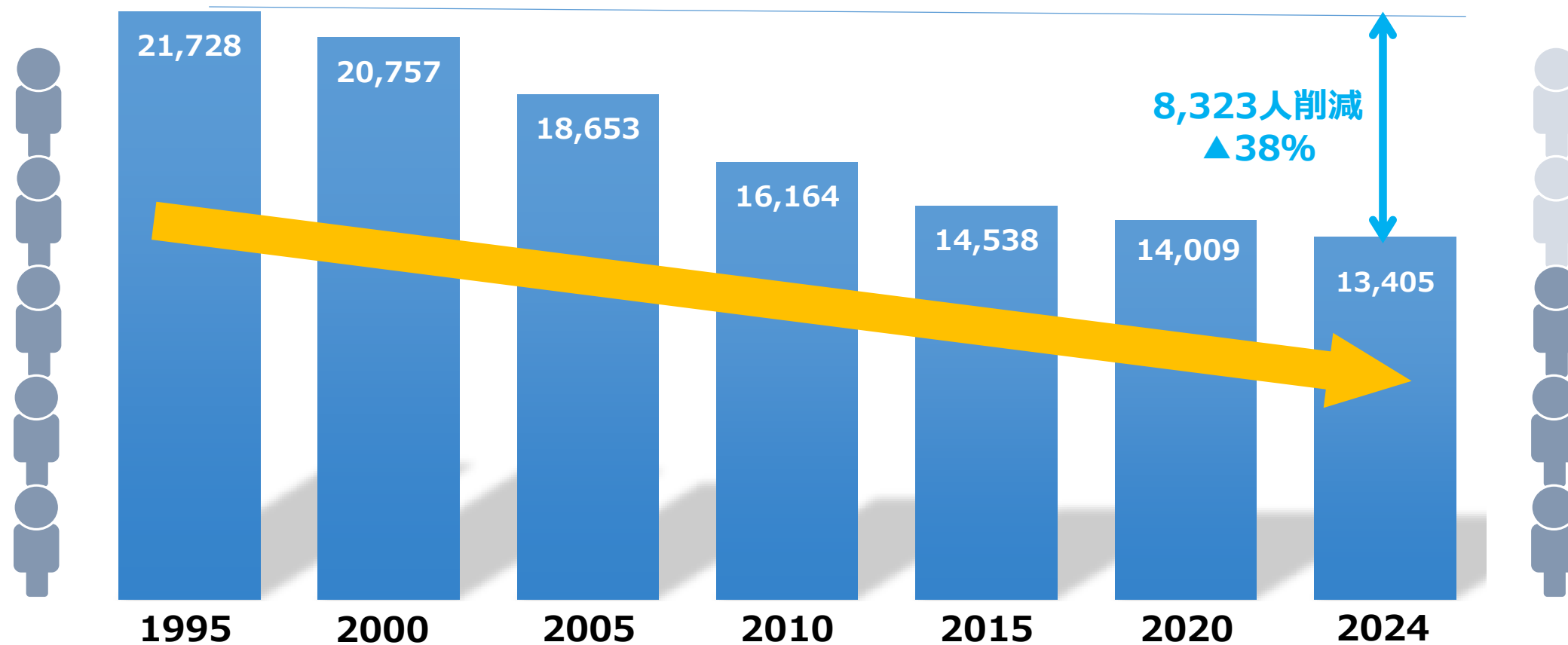


Map-It マップイット(c)

- 1 取組の概要
- 2 EBPM推進戦略
- 3 現状に関するEBPM
- 4 政策効果に関するEBPM
- 5 庁内への周知・浸透
- 6 データ利活用人材の育成 ～戦略と育成状況～
- 7 事例紹介
- 8 情報発信 ～プロモーション～

1 取組の概要

・ 神戸市の職員数



仕事は増え、職員は減る = **職員一人当たりの負担増**

「働き方改革推進チーム」を設置（2017.6）

- 行政事務センターの設置（2017.6）
- **ペーパーレス化本格開始（2018.5）**
- kintoneの導入（2018.5）
- タブレットの全庁導入（2018.11）
- Web会議システム本格導入（2018.12）
- グループウェア・チャット導入（2019.5）
- 旅費システム導入（2020.6）
- MS365ツール本格導入（2020.6）
- セキュアプリント導入（2021.4）
- 消耗品発注システム導入（2021.12）
- RPA本格導入（2022.4）
- 電子契約システム本格導入（2022.6）
- ドローンの活用検証開始（2023.4）
- 財務会計システムの再構築（2023.4）
- Copilotの全庁利用（2024.2）
- 新たなAI基盤をリリース（2026.4）



ペーパーレス化は、行政DXにおいて一般に思われているよりはるかに重要

ペーパーレス化の意義

①紙の使用量の削減

②様々なデジタルツール導入の基礎作り ← こちらの方がはるかに重要



データが増える&ツールに慣れる



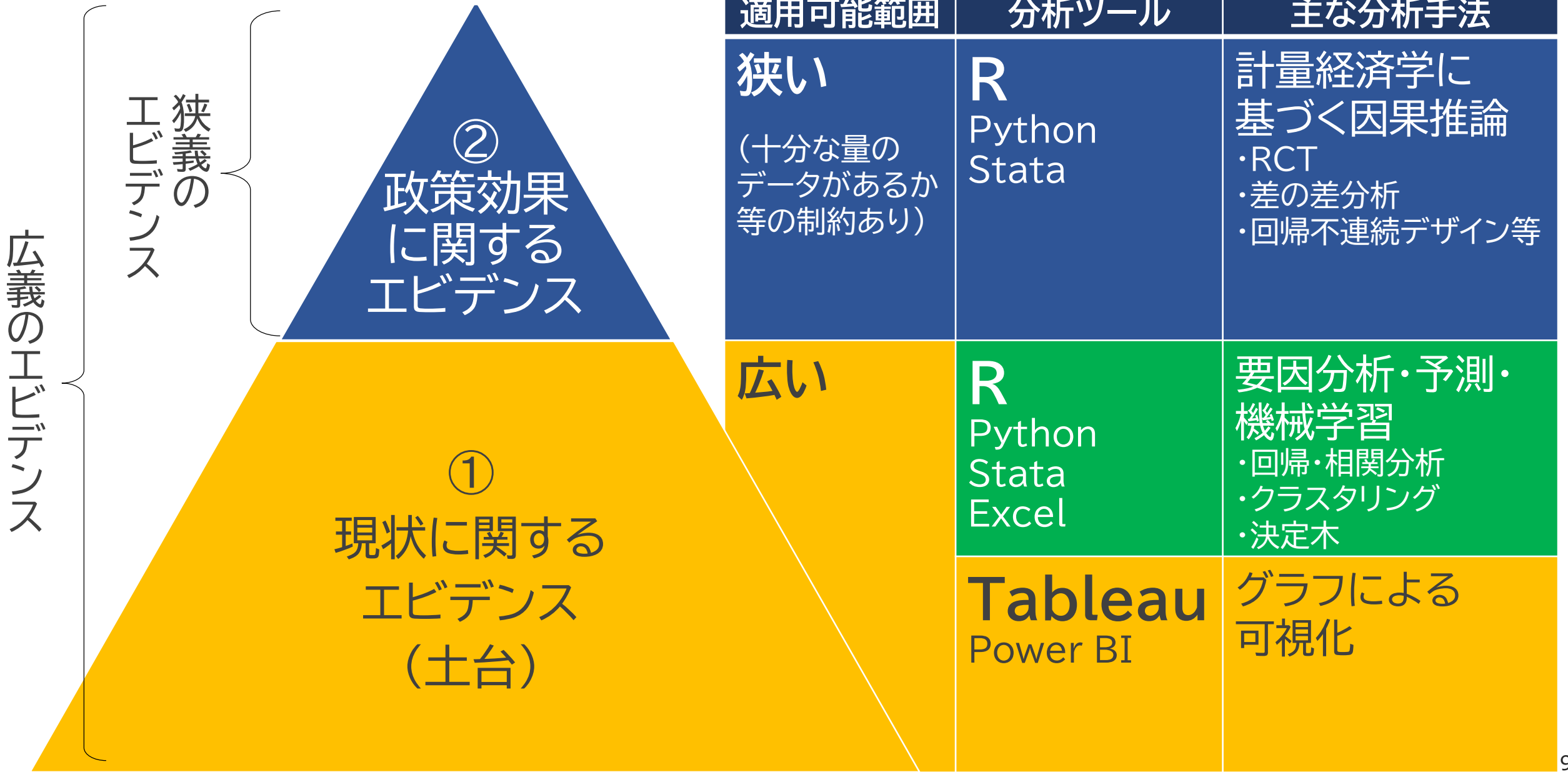
データ利活用が推進

神戸市では、EBPMを推進するため、行政データの利活用を進めています。

EBPM : Evidence-Based Policy Making
エビデンスに基づく政策立案

「EBPM」とは、国の見解※によれば、データなどに基づき、できるだけ正確に現状を把握し、可能な限りエビデンスを求めながら政策の企画立案の質を高める取組とされている。また、政策評価の面では、EBPMを実践することで、政策効果を適時的確に把握、検証しやすくなり、政策の質を高めることにつながるとしている。

※ 第208回国会 参議院 本会議 第30号 令和4年6月10日



2020・2021年度 2022年度 2023・2024年度 2025年度 2026年度

② 政策効果に関するエビデンス

既存エビデンスの活用

統計的因果推論の学術論文活用

体系図→論文調査

ロジックモデル導入検討

新規エビデンスの創出

Rを用いた分析31件に着手

分析21件に着手

R研修・導入編（講義）

R研修・実践編（演習）

Rリーダー認定制度

ビジョンのマネジメント・予算要求への活用を検討、仮説思考を仕組化

政策効果のデータ分析で取り組みやすい分野・領域を整理し、取組を進める

データ分析体制の強化・高度人材の育成強化

① 現状に関するエビデンス

BIツールを活用したEBPMの推進（個別分析のダッシュボード）

データを活用した業務マネジメント

連携基盤の構築

「神戸データラウンジ」（庁内向けダッシュボード）

ダッシュボードの拡充

「神戸データラボ」（公開ダッシュボード）

ダッシュボードの拡充

Tableau研修

応用編・伴走型研修を追加

Tableauリーダー認定制度

積極的な各局支援・横展開、データを活用した業務改革支援の強化

共有するダッシュボードの拡充、活用促進

人材育成の強化、可視化し、データから課題を発見する取組強化

独自将来推計人口等の作成

様々なデータと組合せて、政策立案に活用

ダッシュボードの本格的な活用、データ連携基盤の構築開始

ダッシュボードの全庁共有開始

具体的な事例の創出、各局支援開始、体制強化

本格的な全庁展開、方針・ガイドライン策定、各局支援強化

急激な外部環境の変化に、
柔軟に対応するためには…

DIY : Do It Yourself

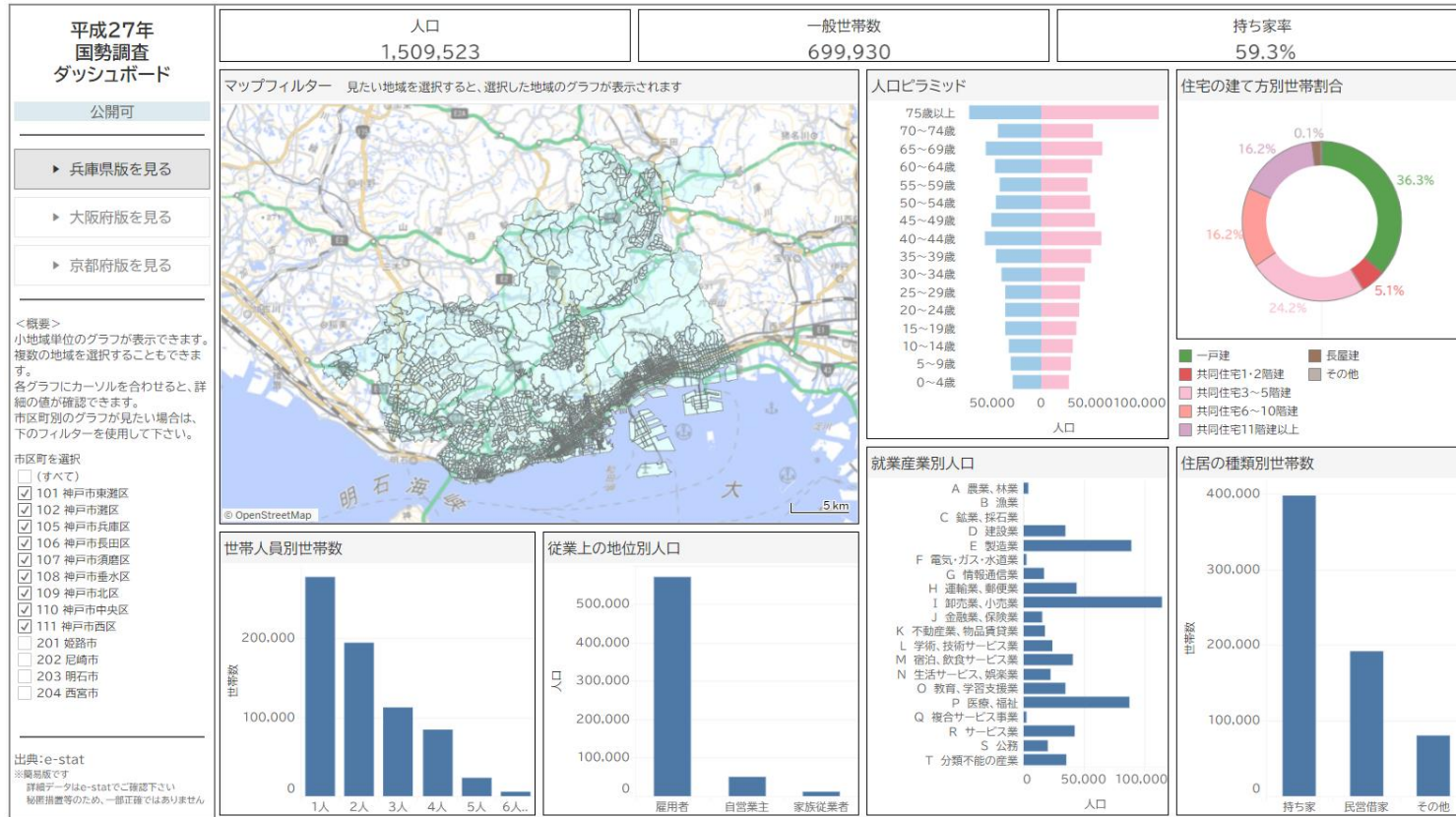
外部の専門家まかせにせず

職員自らやる！！

ローコードツールを活用した
内製化

BIツール : Business Intelligence ツールの略称で、データの可視化など意思決定のためのアプリケーションソフトウェア

ダッシュボード : 自動車の計器盤のように、複数のデータを可視化し一覧できる画面



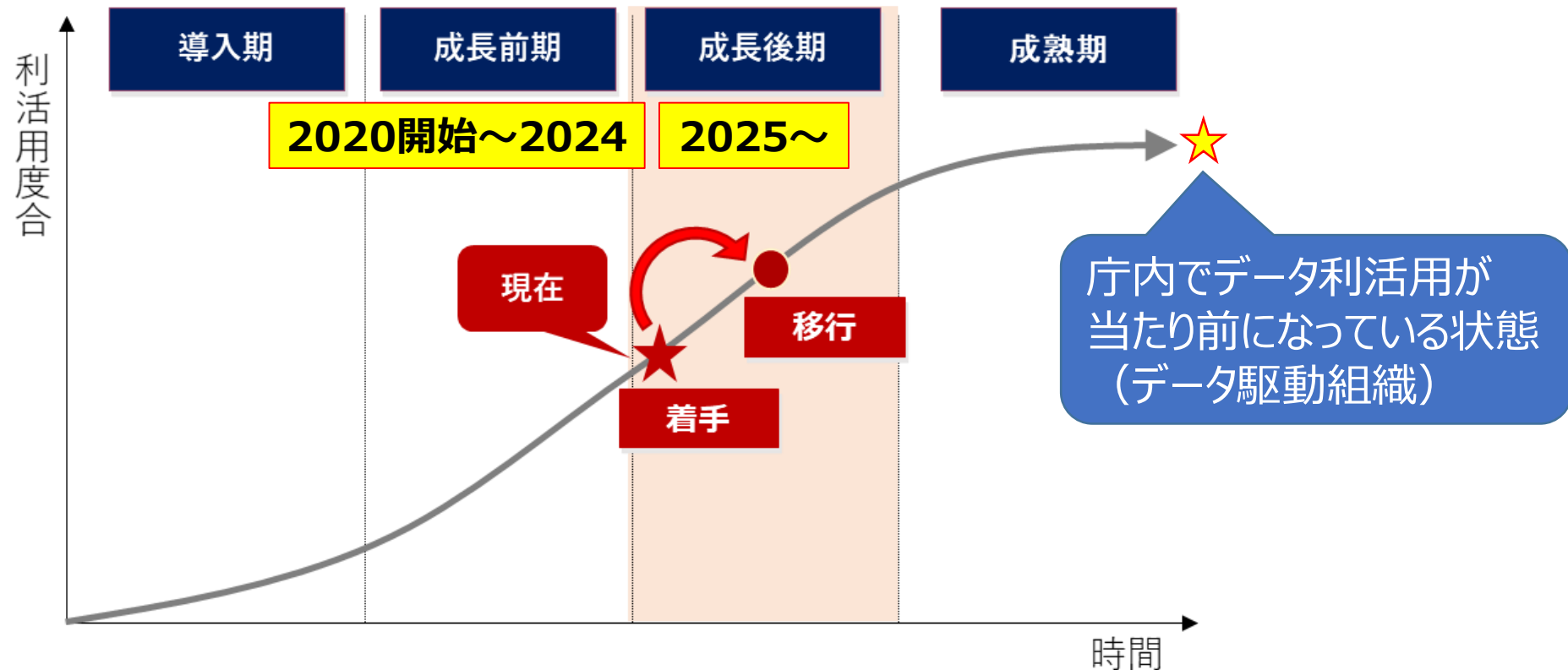
統計やプログラミングのスペシャリストがいるわけではないけど...

直感的に操作しやすい
BIツールの特性を生かし、
多様な統計ダッシュボードを
DIYで大量生産

Tableauで作成した国勢調査のダッシュボード

2 EBPM推進戦略

- 外部環境が急速に変化し、今後、職員数の減少が見込まれる中で、生産性を維持又は向上させていくために、データ利活用の取組は極めて重要であり、組織として、さらに積極的に進めていく必要がある。
- 神戸市ではこれまで下記及び次ページに示す通り、取組開始当初に進むべき方向性定め、事業ライフサイクルのイメージに沿って**EBPMを推進**してきた。
- 2025年度から**本格的に「成長後期」のステージに移行**し、「成熟期」に想定している**「庁内でデータ利活用が当たり前になっている状態（データ駆動組織）」を目指す。**



EBPM推進戦略の全体像 ～成長後期の3つの取組～

神戸スマートシティ

○「成長後期」は、「成熟期」のスタートラインに立つ「準備の仕上げ期間」の位置づけであり、2031年度に向けて、「組織体制の整備・強化」「データ利活用人材の育成強化」「データ利活用環境の整備・充実」を図る。

導入期 2020・2021

成長前期 2022～2024

3つの柱を建てて
データ利活用の
土台を構築

- ①データを活用できる環境整備
- ②データ利活用人材の育成
- ③具体的事例の創出

人材育成戦略
【2021～
2025】

成長後期 2025～

「庁内全体」で
データ利活用を
推進

- ①「方針」と「ガイドライン」の策定と周知
- ②体制の強化
 - ・内部人材の育成（2,000人、各課2～5人）
 - ・外部人材の活用
 - ・組織間連携、データ利活用人材のコミュニティ強化
 - ・各局におけるデータ利活用体制の強化
- ③使えるデータの整備（データマネジメント）
 - ・基本データリストを活用したデータマートの整備
 - ・システム標準化後を見据えた業務マネジメントの準備

人材育成戦略
【2026～
2030】

成熟期 2031～

庁内でデータ利活用が当たり前になっている状態

（＝データ駆動組織：意思決定や業務の改善、政策の立案などを直感や経験ではなくデータに基づいて行う組織）

○企画調整局では、これまで、「忙しい、難しい、やり方がわからない」といったデータ利活用に消極的な職員が、可能な限り**当事者意識をもって積極的なチャレンジができるように**、下記の通り、考える様々な**ハードルを下げる取組**を戦略的に行ってきた。

分類	利用者目線	対応策
構造的ハードル	データが蓄積されていない、データが使いにくい	データ連携基盤の構築、神戸データラウンジの構築、データマートの整備、データマネジメント など
技術的ハードル	スキル不足	研修 、OJT、ツール整備、外部人材の活用（ポスドクの採用、大学との連携）、AIの活用 など
組織的ハードル	当事者意識のない職員の存在、管理職が取組に消極的・理解がない、組織の方向性が不明確、縦割り、評価されない、リーダー不在、仕事が増える、異動による人材不足	専属ラインの設置、各局幹部への直接説明、有識者会議の開催、推進体制の構築、横断組織、プロジェクトチーム、庁内副業、意向調査票に資格記載、評価制度の見直し、局室区DX推進リーダー、 大量育成 、方針の策定、制度改革（新たな文化の醸成、チャレンジできる環境の創出）、管理職の意識改革 など
心理的ハードル	不安、怖い、人数が不足している、やり方がわからない	セキュリティの向上、 大量育成 、EBPMポータルサイトの構築、事例紹介、政策課による各局支援、ガイドラインの策定 など
社会的ハードル	孤立、属人化	コミュニティ形成（研修でのワークショップ・チャットルーム・もくもく会・事例共有会・プロジェクトチーム）、メンター制度 など

神戸市が保有する様々なデータは、市の政策を高度化し、業務を改善することに資するビッグデータである。神戸市は、現実を冷静、客観的に調査・分析し、市民と対話しながら、**先導的な政策を企画立案するため**、また、市民サービスの向上や職員負担の軽減につながる**業務の効率化を進めるため**、以下の方針に基づき、**市が保有するデータを最大限に活用**する。

こうした取組を、民間を含む神戸市全体の取組として波及させていくことで、データ・デジタル先進都市として、人材や企業が集積し、全国や世界に貢献する都市を目指す。

1. 各所属が当事者意識を持ってデータ利活用に取り組む

政策立案や業務改善が各所属の責務であるのと同様、**データを用いた政策立案や業務改善も各所属の責務**である。各所属の職員一人ひとりが、他人任せにせず、必要に応じて学びなおしを自発的に行い、一丸となって新たな取組にチャレンジしていくことで強い組織が形成され、革新的で持続可能な行政経営に寄与する。

こうした各所属の**当事者意識を持った取組を各局室区内で支援するとともに、全庁でも支援**する。

2. データ利活用と法令遵守・セキュリティ対策との両立を実現する

データ利活用は、個人情報保護等の関係法令遵守及びセキュリティ対策と両立する必要がある。神戸市は、これらの観点から**データ利活用の可否を各所属が判断する指針となるガイドライン**を定める。

3. 縦割りを排し、全庁でデータを活用する

各所属は、自所属のデータが他所属の政策立案や業務改善に資する場合があることを理解し、ガイドラインに照らしてデータを提供する。縦割りを排し、**全庁で業務改善を進める**ことで、コストを削減し、新たな取組にチャレンジできる環境を構築する。

4. 内製でデータ分析を担える人材を育成し、活躍の場を与え、その貢献を適切に評価する

神戸市は、**内製でデータ分析を担える人材を育成**する。また、育った人材が全庁で**活躍できる場を提供**し、その**貢献を適切に評価**する。さらに、この庁内のデータ利活用人材が外部の人材と有機的につながり、役割を果たしていくことで、地域の課題解決や教育、産業の活性化につなげる。

5. 市民参画と協働を目的とする開かれた行政（オープンガバメント）の実現を目指す

オープンデータの推進は自治体の義務である。神戸市は、その意義・目的を理解し、市民社会に貢献するため、**他自治体の先頭に立って積極的にオープンデータを推進**する。

さらに、産学官連携により、行政及び民間データを活用した地域課題の解決や価値創出、産業の活性化、市民社会に貢献する官民を通じた人材育成に取り組む。

- ガイドラインには、データ利活用を進める上で**必ず守らなければならない規範（関連法）の整理**（「守り」のデータ利活用）に加えて、**データ利活用を積極的に進めるために必要な事項**（「攻め」のデータ利活用）を記載する。
- データ利活用を進めるためには、必要なデータを収集し、管理する際に必要なことを理解、実行すること（＝データマネジメントの実現）が必要不可欠である。

「守り」のデータ利活用



関連法の整理

- データ利活用に関連する多数のルールについて、解釈を整理する
 - ・ 個人情報保護法
 - ・ 神戸市情報セキュリティポリシー など

○ データ利活用を**行う**上で、守らなければならないこと

「攻め」のデータ利活用



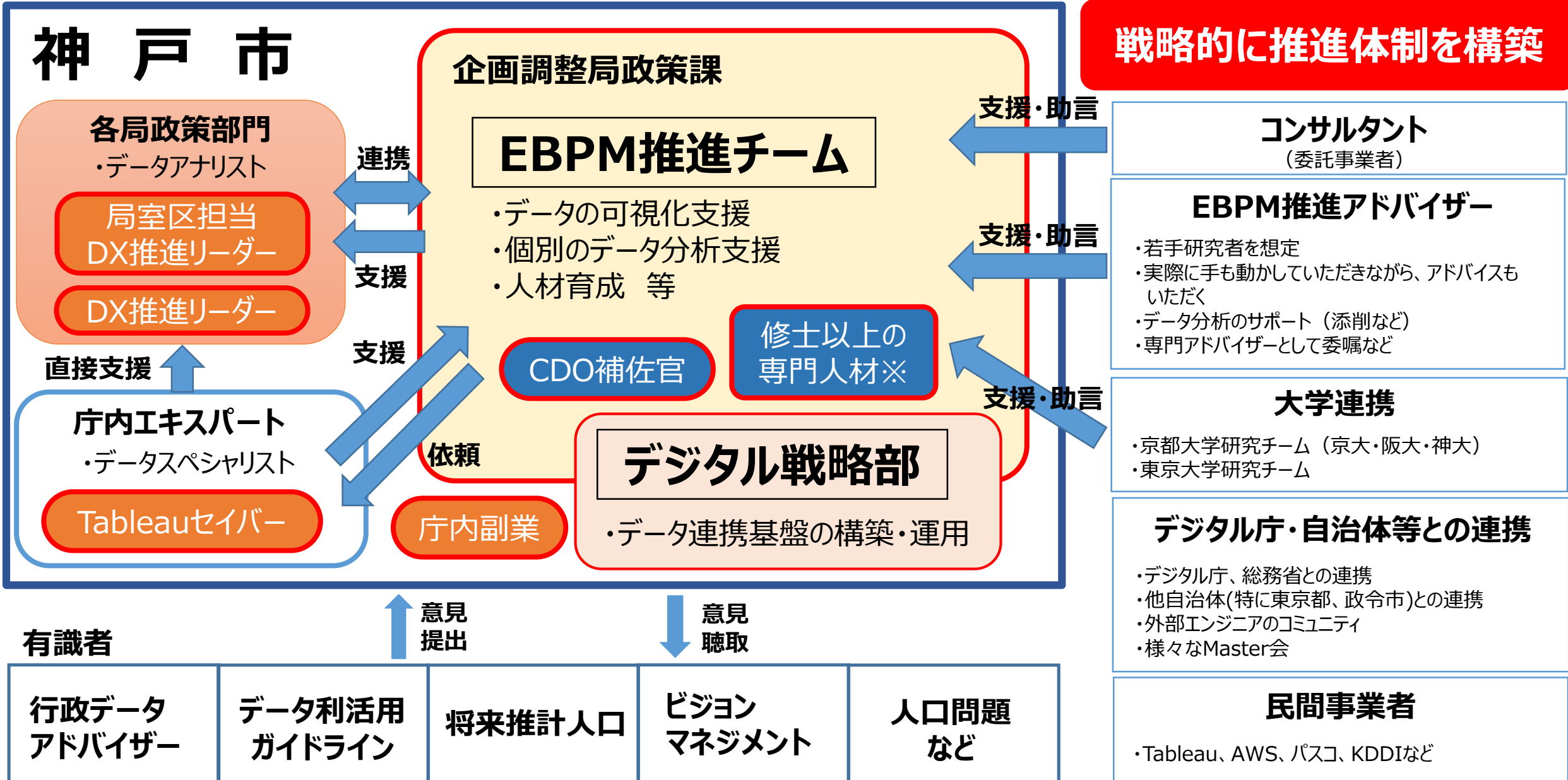
データマネジメントの実現

- 目的に応じたデータを利活用できる状態にするために必要な事項を示す
 - ※ データ利活用を可能とするためには、データ収集の段階からデータの利用を意識する必要がある。具体的には、データの保存場所や命名規則、データの持ち方等も考慮しておかなければ、スムーズな活用に繋がらない

○ データ利活用を**進める**上で、必要になること

神戸市

戦略的に推進体制を構築



※ 正確には、大学側の推薦により、研究者志望の博士課程在学中の学生を採用

神戸市データ利活用方針 | 理念・基本方針

■ EBPM推進戦略

何のために使うか

全体戦略

■ 人材育成戦略

誰が使うか

○研修計画

個別戦略

■ データマネジメント戦略

どのデータを、どの状態で使えるようにするか

○(仮)基幹系システムデータ活用計画など

個別戦略

現在策定中

データ利活用ガイドライン | 職員が実務で守る判断基準・手順

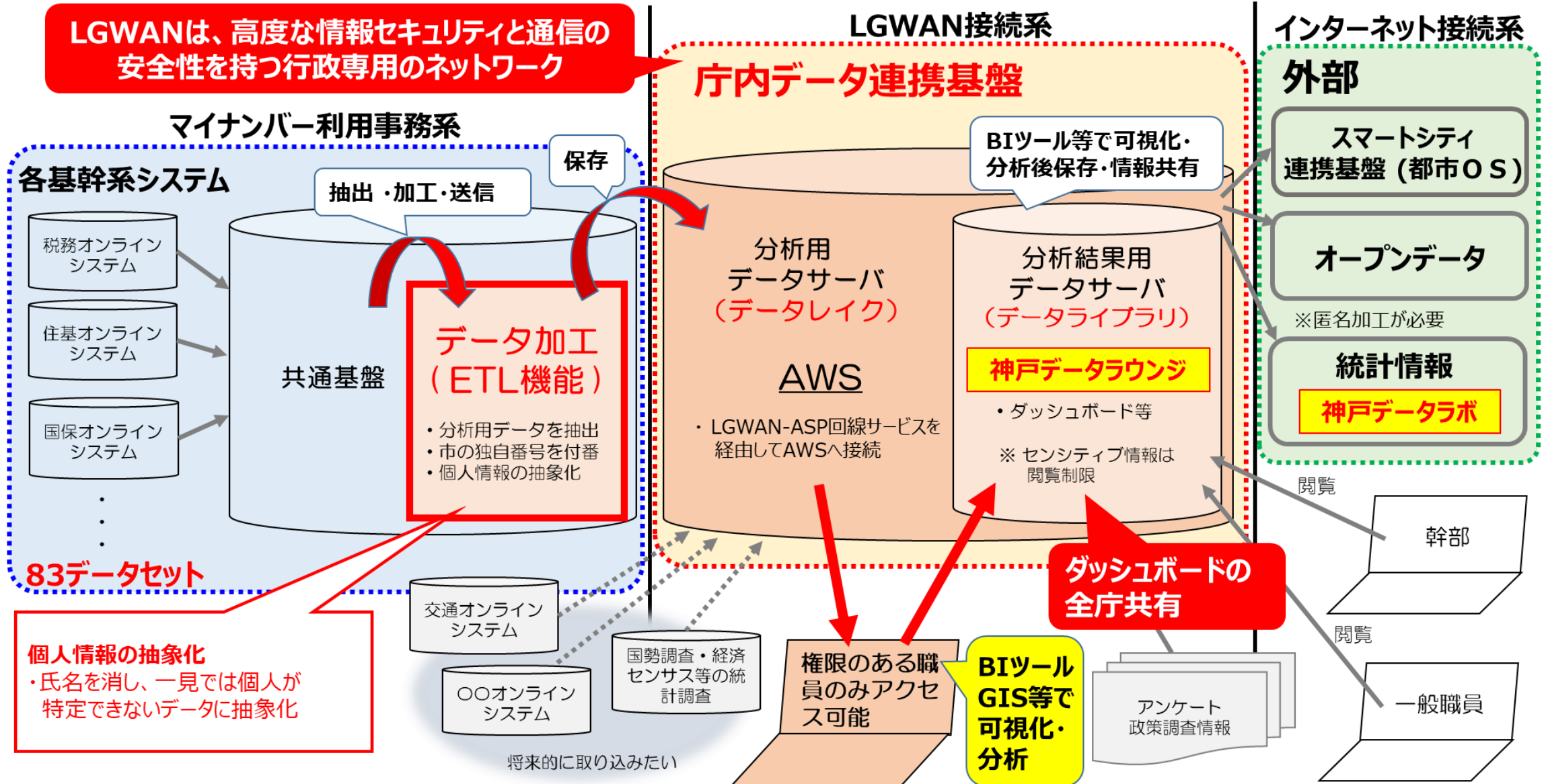
共通基盤：情報セキュリティ関係規定・実施手順書

3 現状に関するEBPM

庁内データ連携基盤の構築（将来像のイメージも含む）

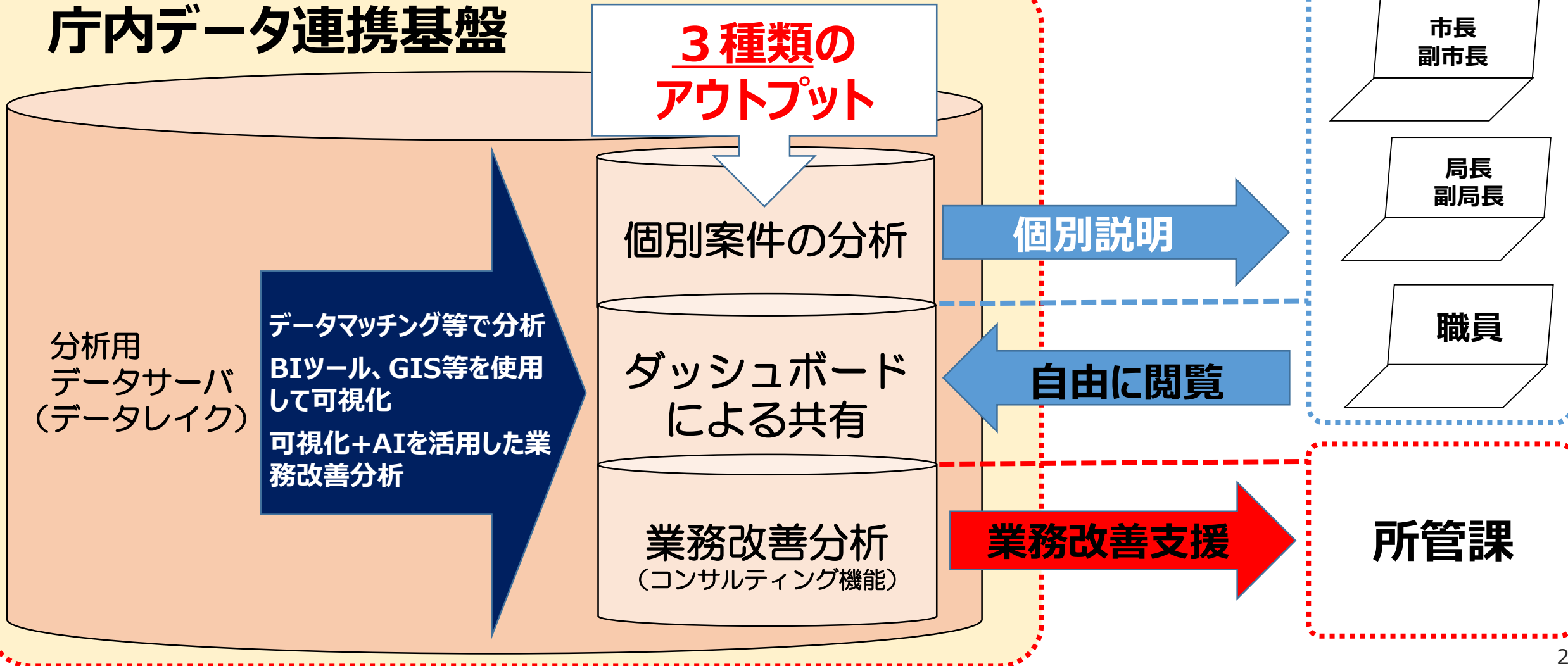
神戸スマートシティ

○データを「蓄積」し、ダッシュボードに加工して「共有」⇒ データの扱いに不慣れな職員でも活用が可能



- 可視化した**データ**を**政策立案者等に提供**することで、データに基づく**合理的で無駄のない政策立案**が可能となる。
- 行政データの可視化や機械学習を行い、所管課への**積極的な業務改善支援**が可能となる。

庁内データ連携基盤



○ **2022年6月から本格運用（全庁共有）開始**。職員は、デスクネッツから「神戸データラウンジ」へアクセス可能

デスクネッツから「神戸データラウンジ」へアクセスできます！！

データ利活用人材育成状況と募集中の研修

- データ利活用人材育成状況と募集している研修の案内を掲載
- 研修受講を促し、データ利活用人材の育成を促進する

データ利活用人材育成状況

年	データエキスパート	データアナリスト
2022	87	213
2023	229	420
2024	441	841
2025	881	

研修案内

統計基礎研修(テキスト教材)

コラム欄

- 定期的に更新することでアクセスを促す
- トピックスやダッシュボード作成者の紹介などを写真付で掲載するなど、データ利活用に興味をもらってもらう

サムネイル表示

- 検索性がある（リストよりも探しやすい）
- 初めて見た人が見てみたくなる
- YouTubeみたいなサムネイルの方が押しやすい

○職員が活用しやすいように、白基調で**フォーマットを統一**し、ダッシュボードの説明書なども掲載

タイトル

小学校区別
住基人口

市内限定

▶人口をみる

▶外国人をみる

▶世帯をみる

ダッシュ
ボード
選択

説明

地図の濃淡は平均年齢を表しており、色が薄い地域は平均年齢が低い地域です。
地図をフィルターとして利用することができます。

※このグラフの人口は、小学校区が町丁目単位で設定できる地区のみの合計であるため、他のグラフと数値が一致しません。
各年9月末現在の人口です。

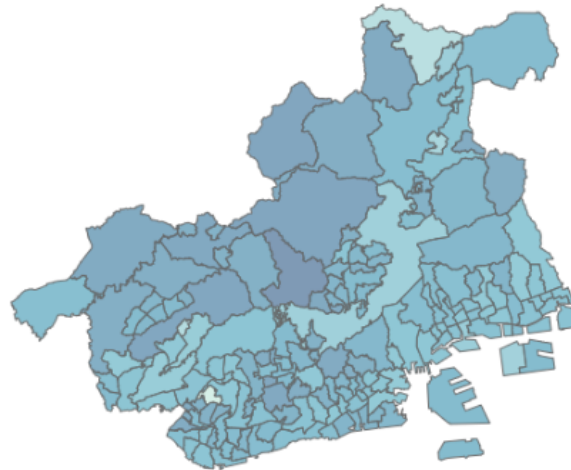
※2
過年度の小学校区について、
2021年度の小学校区に合わせ
て集計しています。

データ
出典

出典
神戸市住民基本台帳
2021年12月31日

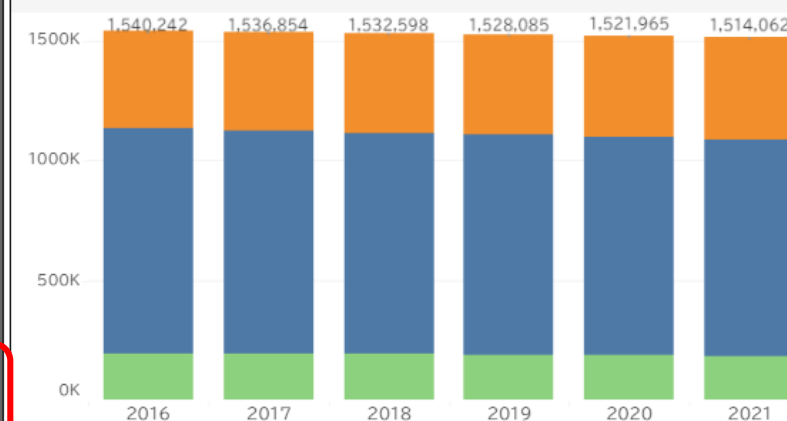
人口総数 1,516,722 人

年齢平均値 みたい地域を選択すると、選択した地域のグラフを表示することができます。



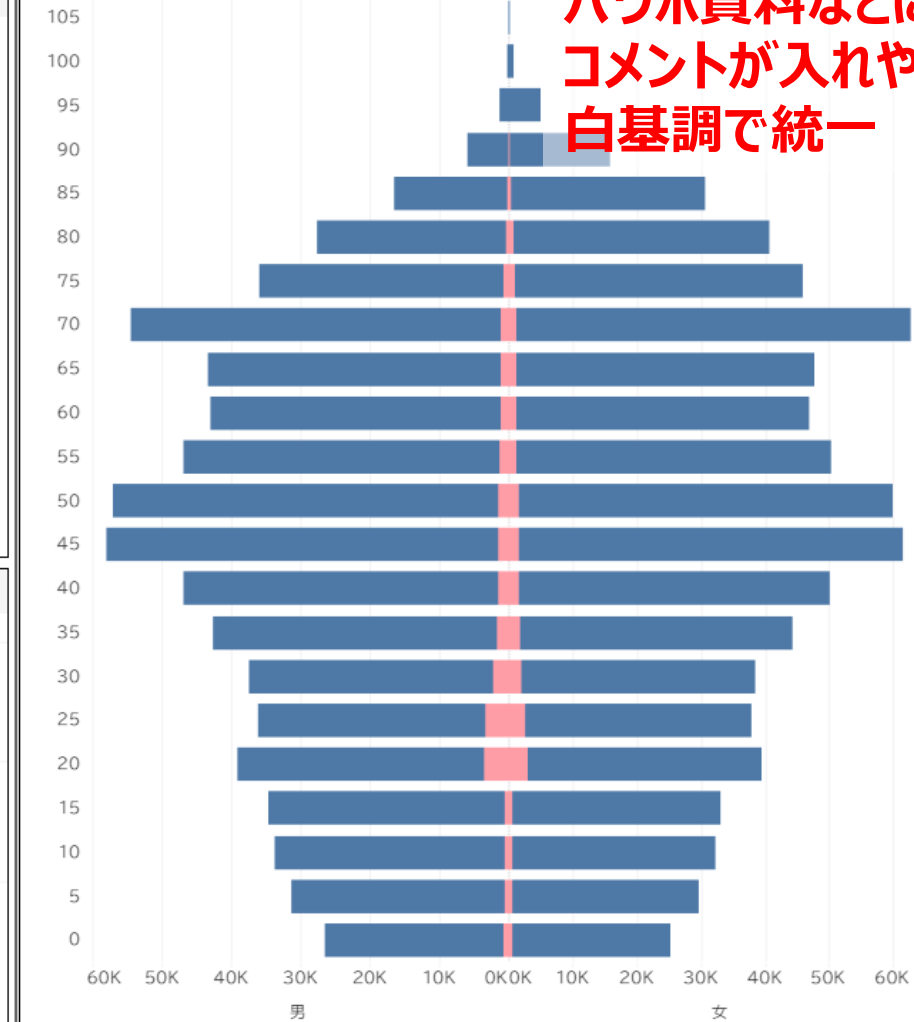
© OpenStreetMap

年齢3区分別 人口推移(概数) ※1 ※2

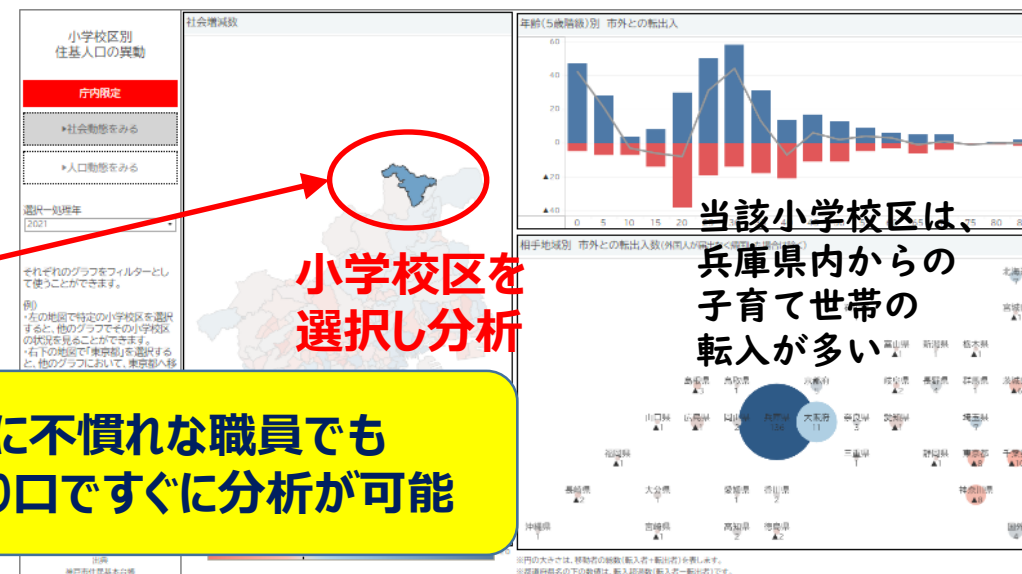
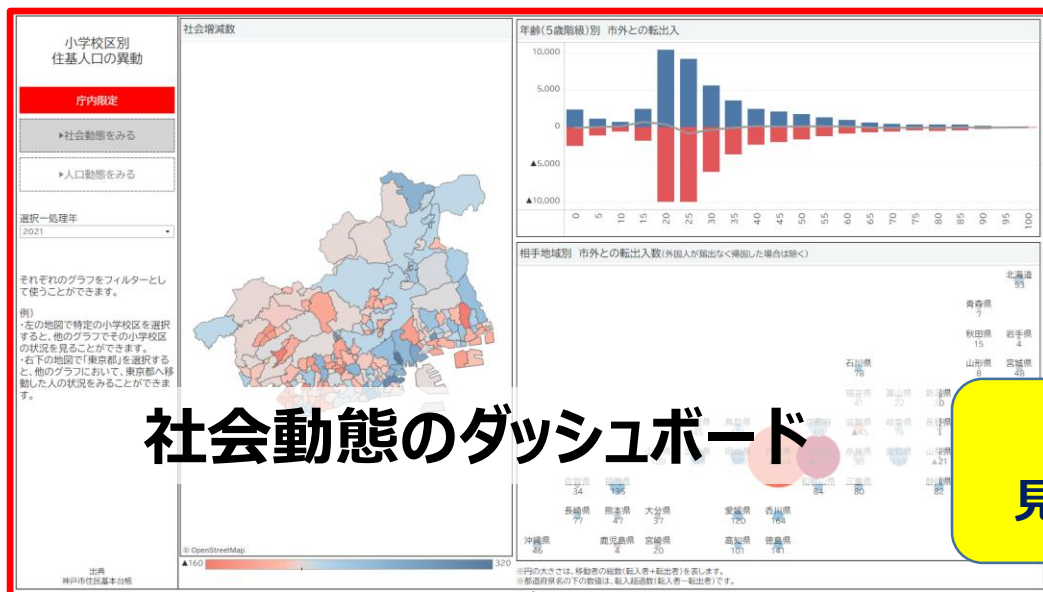


日本人 外国人

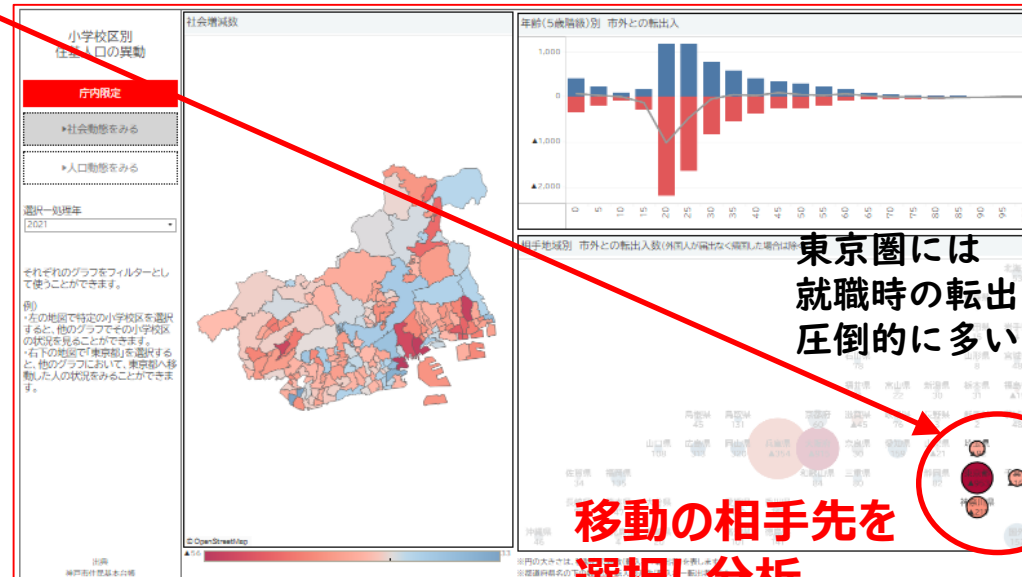
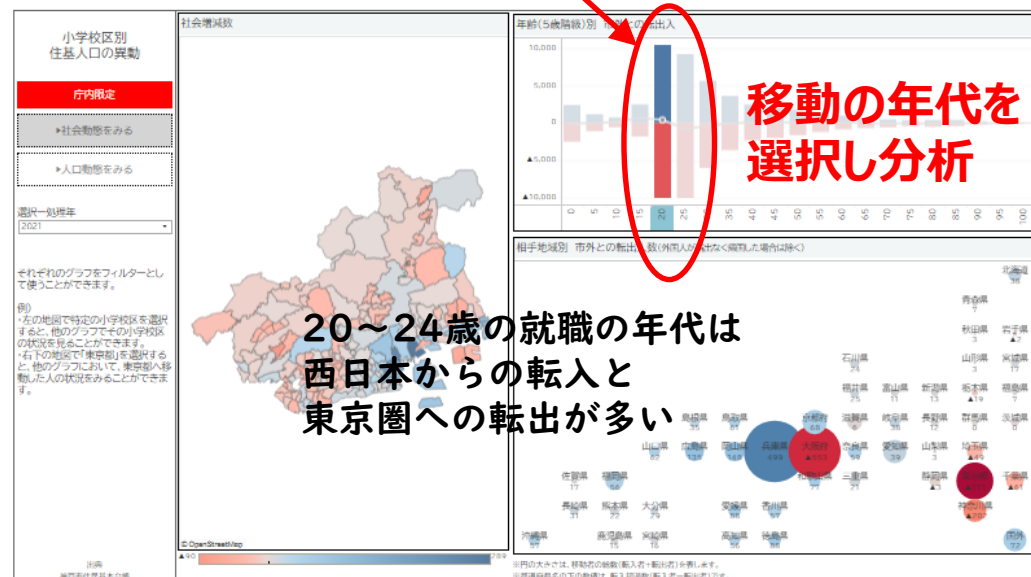
人口ピラミッド



各局の担当者が
パワポ資料などに張り付けて
コメントが入れやすいよう
白基調で統一



データに不慣れな職員でも
見たい切り口ですぐに分析が可能



○ **住基データを活用した、1歳階級別、小学校区別、将来推計人口**を神戸市独自で算定し、**毎年更新**

【2023年度版】

神戸市版将来人口推計【市内限定】

(区別・小学校区別 2023年～2050年)

- ・ 2023年4月末の国勢調査データを基準人口として、2050年までの各年の将来推計人口を算出しています
 - ・ 区別、小学校区別で「人口推移」、「指数の変化」、「人口ピラミッド」を表示しています
 - ・ 「年選択パラメータ」を用いて、2023年から2050年まで指定することが可能です
- ※本推計情報は過去数年の人口動態の傾向を将来に投影した**推計値**です

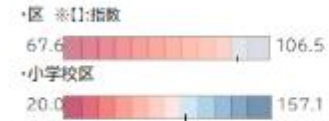
指数変化(2023年の人口を100とした場合)

表示切替 小学校区表示

年選択パラメータ(2023年～2050年)

2050年

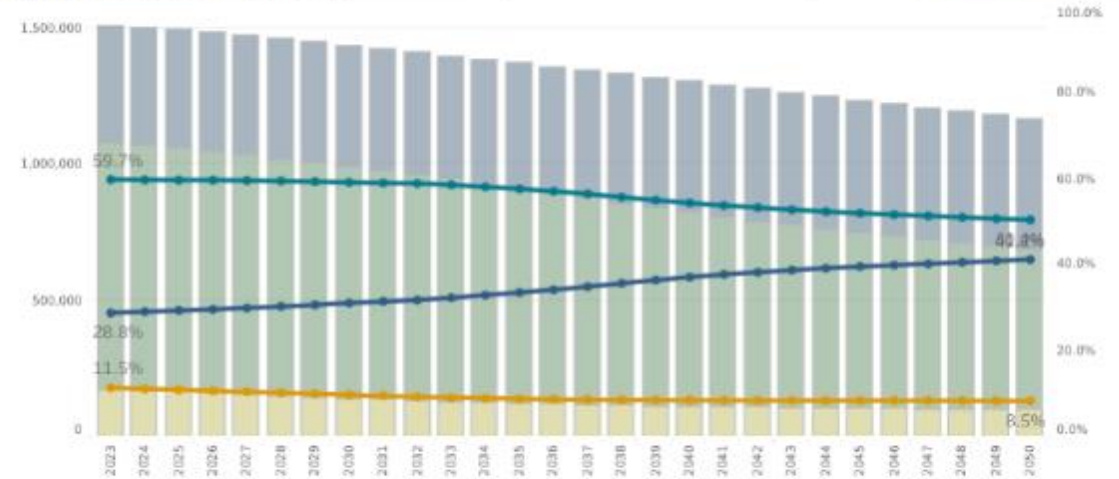
指数(区と小学校区)



人口推移(2023年～2050年)

≡

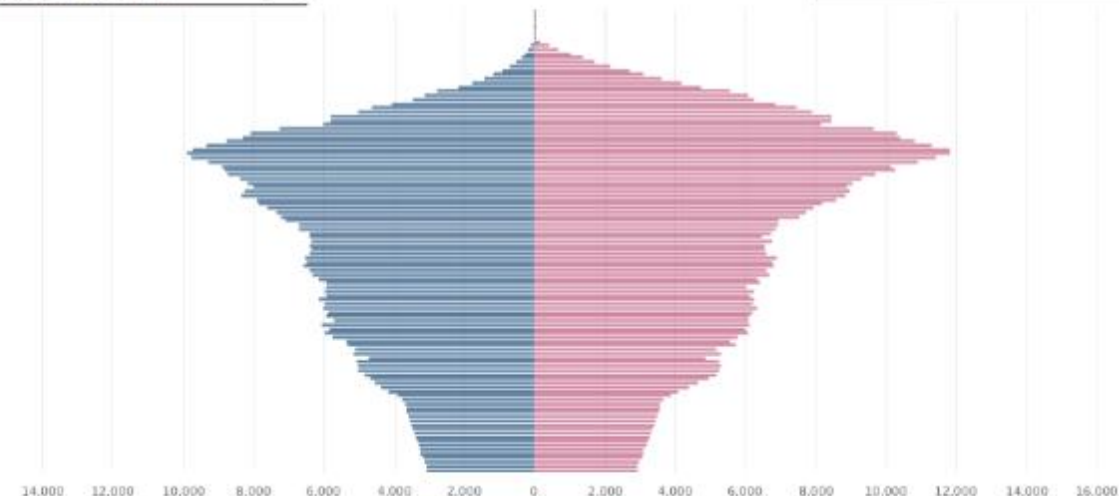
表示切替 年齢3区分の推移



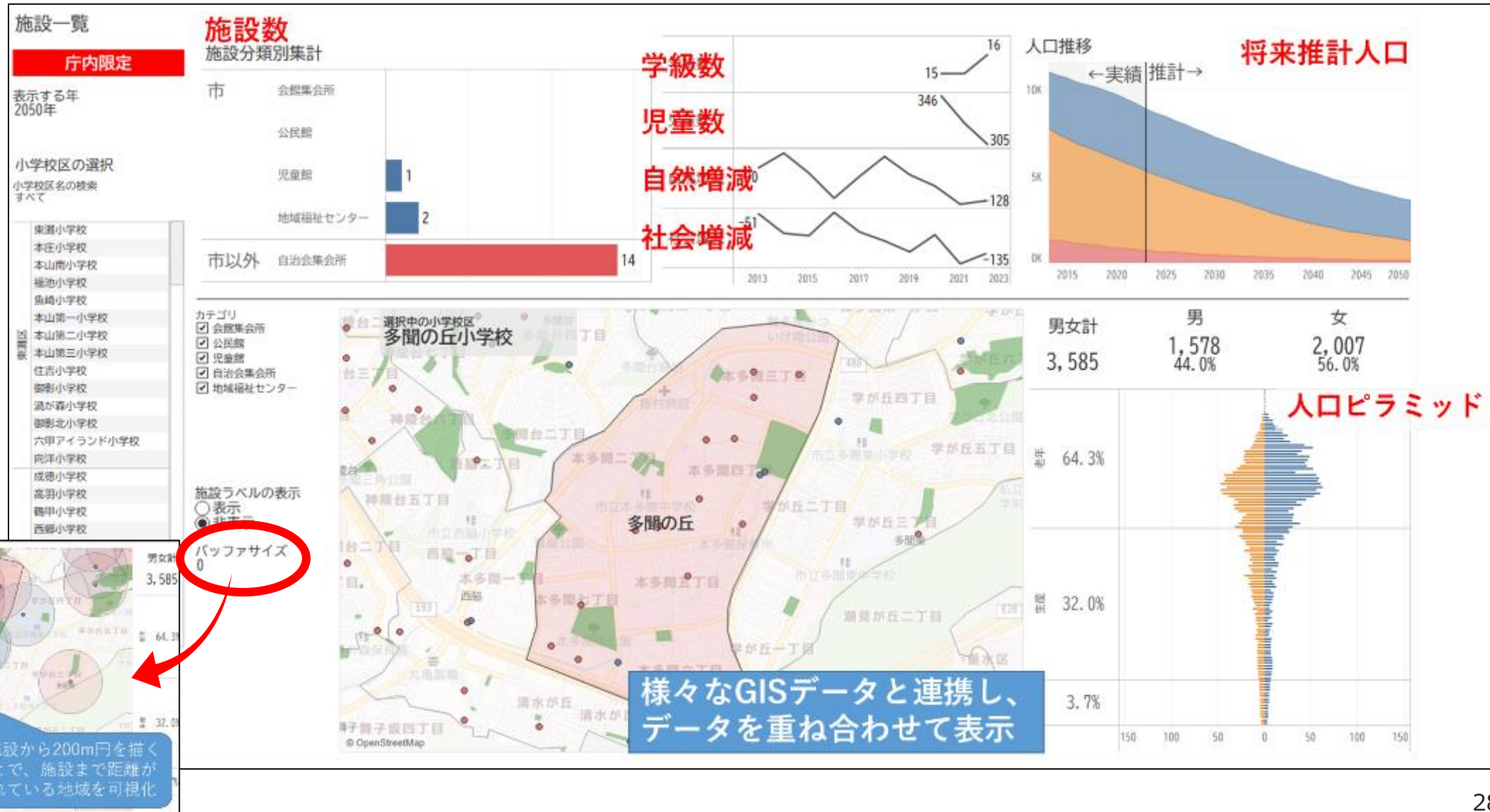
人口ピラミッド

≡

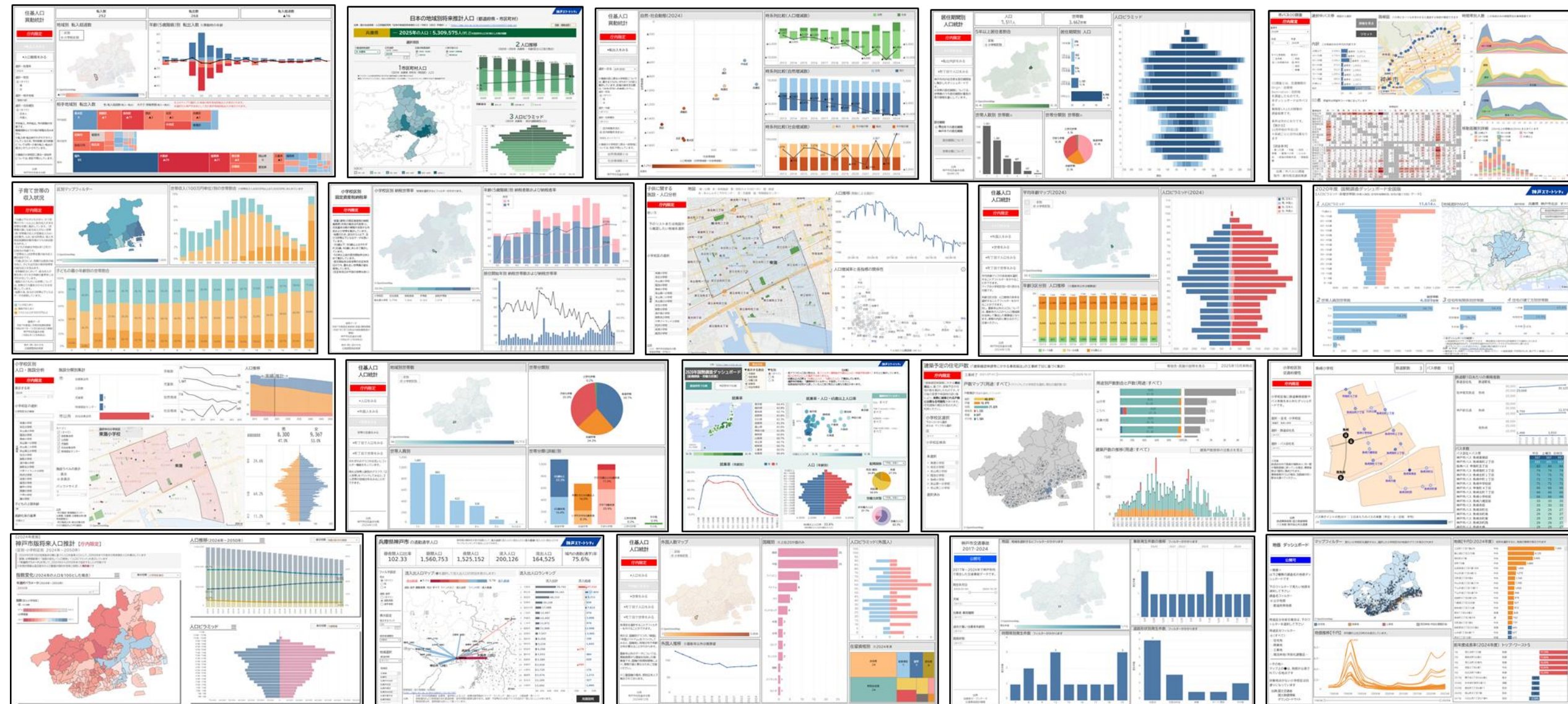
表示切替 1歳階級



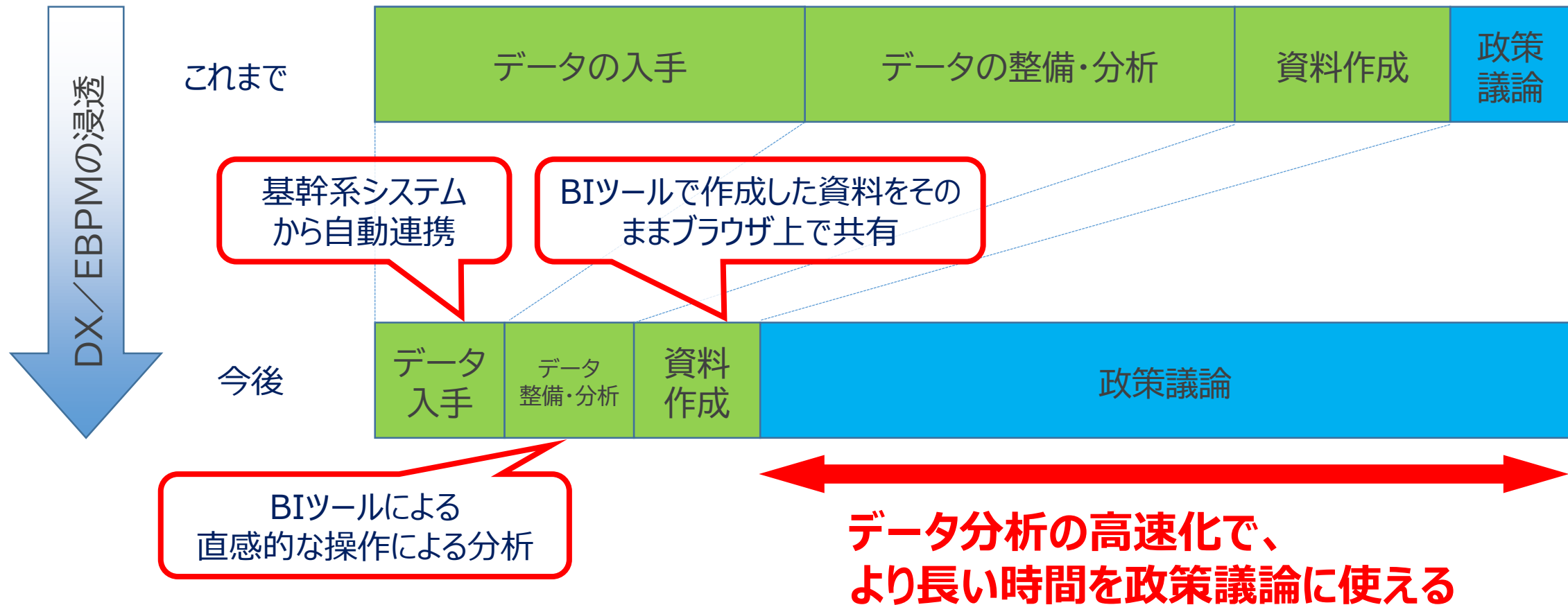
○小学校区ごとに**人口の状況と公共的施設の配置状況**が確認できるダッシュボードを作成し共有



○現在、**170程度のダッシュボードが「神戸データラウンジ」に掲載**され、職員間で共有



- BIツールによる直感的な**分析と共有**
- 基幹系システムとの連携による**データの整備**



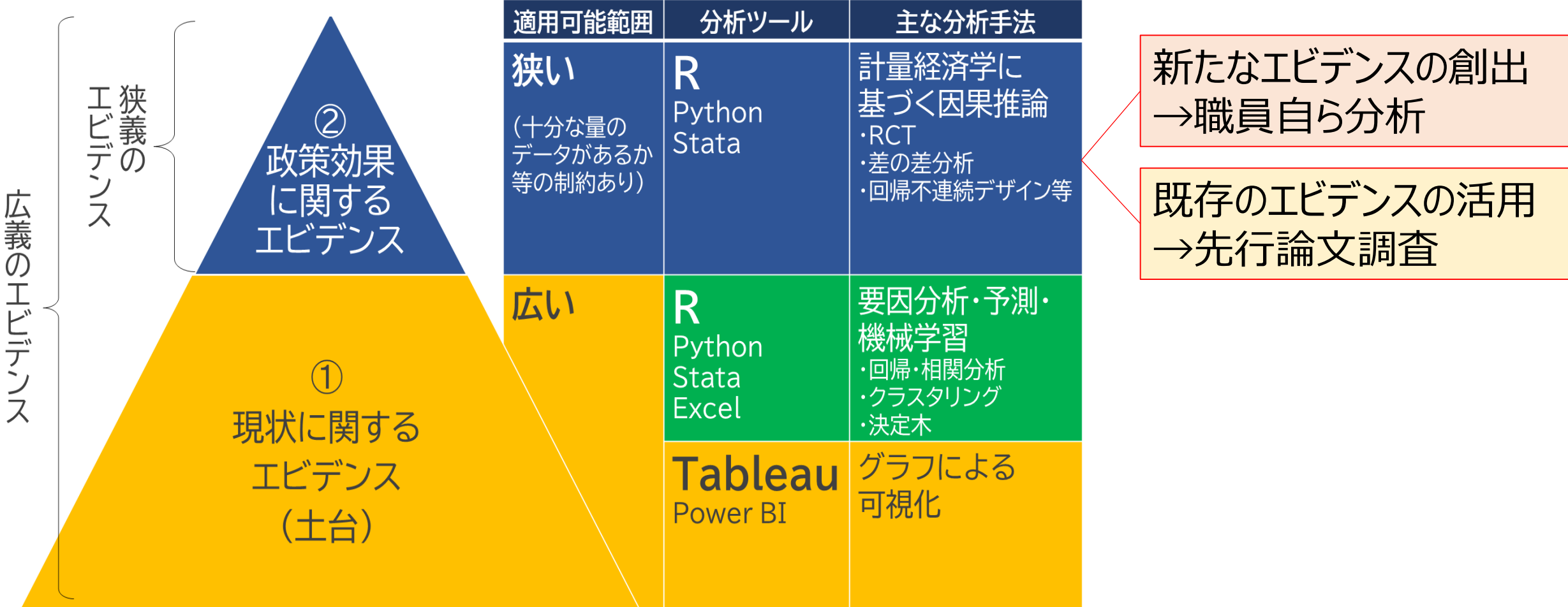
○全庁でEBPMを進めるには、政策立案に携わる**各局所管課の職員によるデータの分析がポイント**であり、
そのためには**人材育成が重要**

対応	対象	DB種類	共有	目的	手段など
個別対応	職員	業務改革	全職員での共有不可	○個人データを使ったマネジメント	主に各局所管課の職員で対応 ↓ 人材育成が必要 最も重要！
		EBPM		○詳細な深堀分析	
共有	職員間	EBPM	データラウンジ	○簡単なデータ分析（現状の把握） ○データ分析の入り口 ○こんなデータがあるというカタログ	主に企画調整局の職員がインフラとして整備
		DX		○DX進んでいない部署が現在地を知る → 足らず知って自分たちで埋める	
	市民	オープンデータ	データラボ	○わかり易い情報発信 ○シティプロモーション	Tableauパブリックを活用

4 政策効果に関するEBPM

- 既存のエビデンスの活用
- 新たなエビデンスの創出

○政策効果に関するエビデンスにおいては、「既存のエビデンスの活用」と「新たなエビデンスの創出」の2つの取組を行っている。



○計量経済学の因果推論の手法を用いた国内外の学術論文を**36テーマ、約800本を調査**し、エビデンスとして活用

2023

2024

2025

項目	論文数
①出生率に影響を与える要因	12
②最低賃金の経済効果に対する因果効果	12
③子どもの体力に影響を与える要因	58
④外国人の流入による影響	19
⑤大学生の負担軽減施策による政策効果	19
⑥結婚の決定要因（結婚支援策の効果）	51
⑦空家の発生要因	9
⑧成人病の発症率の決定要因	25
⑨開業率が高い地域の要因（スタートアップ関連）	30
⑩女性の就業率を上げるには（女性の就業要因）	22
⑪住宅の構造が健康に及ぼす影響	45
⑫ソーシャルキャピタルは社会経済にどのような影響を与えるか	25
⑬ソーシャルキャピタルがウェルビーイング（子育てなど）に及ぼす影響	26
⑭ウェルビーイングを構成する要因（決定要因）	26
⑮小・中学校教育に係る「学級規模」が学力に与える影響	24
⑯フッ化物の虫歯予防に対する効果	21
⑰投票環境が投票率に及ぼす影響	9
⑱子供の職業選択に親が及ぼす影響	21
⑲孤立・孤独による生活への影響	22
⑳メンタルヘルス不調・精神疾患になる要因	19
㉑夫婦出生力の決定要因	33
㉒海外（先進国）における出生率向上の要因	20
㉓不登校（小学生・中学生）の決定要因	20
㉔健康寿命の決定要因	31
㉕スタートアップ企業の成長の要因	21
㉖コンビニエンスストアの誘致による効果	19
㉗後期高齢者健康の効果	16
㉘文化財・伝統行事が住民や地域に与える効果	14
㉙オーラルフレイルの方への事後指導の効果	22
㉚若者のUターンの要因と有効な政策	17
㉛若年期の女性のやせと健康	18
㉜森林・緑化が及ぼすヒートアイランド現象の緩和効果	15
㉝市街地緑化の心理的影響	19
㉞こどもの様々な活動と非認知能力との関係について	18
㉟児童虐待の要因について	13
㊱PSM(Public Service Motivation)に関する調査	6

2026年度も実施

⑧「成人病の発症率の決定要因」

健康診断の受診が、運動等の健康行動につながる等が分かり、健康局の健診推進施策の検討に活用

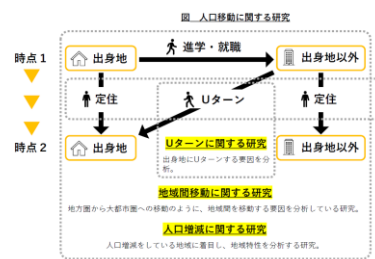
⑪「住宅の構造が健康に及ぼす影響」

住宅の断熱性能が健康増進に資すること等が分かり、建築住宅局のこうべぐらし応援補助金の見直しに活用

⑯「フッ化物の虫歯予防に対する効果」

フッ化物洗口の予防効果（いつ実施すれば効果があるか）やフッ化物歯面塗布の予防効果（どれくらいの頻度・年数で行えば効果があるか）等が分かり、小学校でのフッ化物利用の全校展開の検討に活用

人口移動に関する研究の体系



若者のUターンの要因と有効な政策

活用事例

フッ化物洗口や歯面塗布の予防効果を確認
→フッ化物利用の全校展開の検討に活用

フッ化物の虫歯予防に対する効果

4 フッ化物洗口の予防効果（いつ実施すれば効果があるか）小学生

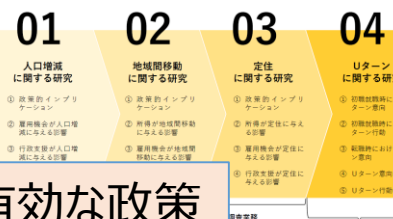
【調査時点が小学生の場合】

- 蝕罹患の調査を小学生時に行ったもので、フッ化物洗口による蝕予防効果があるとした論文のうち、いつからフッ化物洗口を開始したのかを分析した3つの論文の結果を合成した。
- う蝕の罹患は複数年で進行するため、継続的に数年間予防に取り組むことが重要であることが指摘されていた。また、乳歯の時点でう蝕罹患しないことが、萌出する永久歯へのう蝕罹患を避けることが期待できるという指摘がなされていた。

論文番号	調査対象	小1	小2	小3	小4	小5	小6	説明
9	4歳、5歳時に（幼稚園、保育園）で洗口プログラムを実施							治療済の3/4より多くの人数でフッ化物洗口プログラムを実施していた幼稚園、保育園出身の子どもは、それほど実施していない子と比べて、小6時に平均DMF指数は少ない。
10	小学1年生から5年間フッ化物洗口プログラムを実施							小学校1年生から6年まで5年間フッ化物洗口（0.2%NaFペーストを用いた週1回）を実施することによるDMF指数のう蝕罹患率は、約55%と低下する。
11	小学1年生～小学6年生までフッ化物洗口プログラム実施							フッ化物洗口実施群（週1回0.2%NaFペーストによる10分間の洗口）と非実施群との比較で、小学1年生ではう蝕罹患率に有意な差はなかったが、小学2～6年生では有意な差が認められた（2年生および4～6年生：p<0.001、3年生：p=0.027）

※ ●は調査時点を示している。

勉強会の流れ

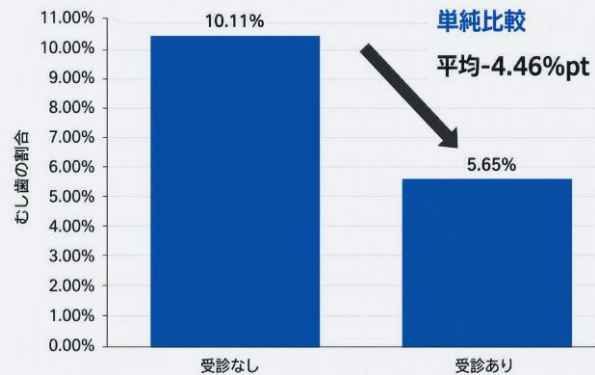


先行論文調査を活用した勉強会も実施

- 2023年度以降、**内製**で、**Rを用いたデータ分析を、61件着手し、うちうち完了40件、分析中12件、撤退9件**
- 分析の結果をうけて見直した事業も存在し、一定の成果を挙げている。

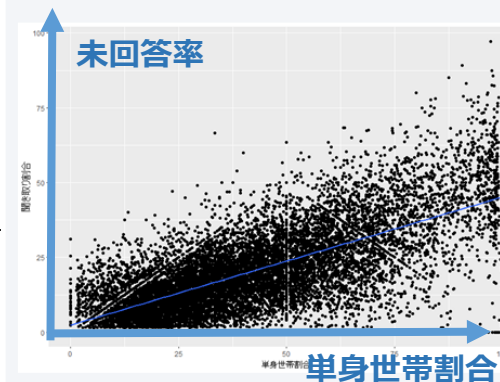
■ 妊婦歯科健診とこどものむし歯（重回帰分析）

むし歯のあるこどもの割合



- ・妊婦は無料で歯科健診を受診できる。むし歯菌をうつさないための知識を得たり、むし歯治療につなげて妊婦のむし歯菌を減らしたりすることで、こどもに菌がうつるリスクを減らす。
 - ・共変量を考慮後も受診妊婦のこどもの方が、むし歯になる確率が2.54%pt低かった。（10%水準で有意）
- ⇒**受診率向上策に活用**

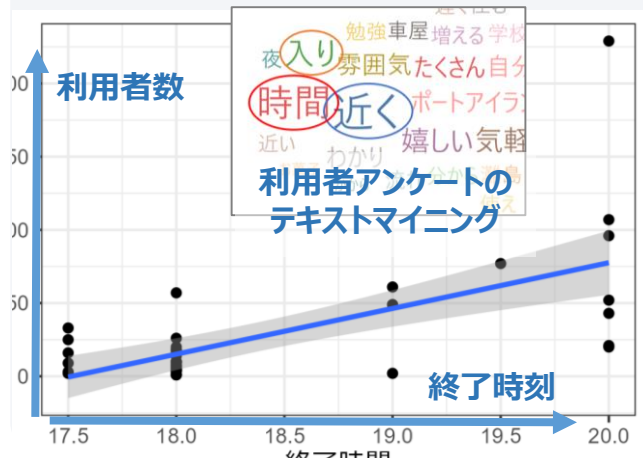
■ 国勢調査回答率向上のための未回答属性の要因分析（単回帰分析・決定木分析）



- ・前回国勢調査の結果データを用い、回答率が低かった調査区の属性（単身世帯率・共同住宅率・高齢化率等）を分析
- ・単身世帯率が1%ptあがると、未回答率が0.429%pt増加する等の傾向が判明

⇒**広報ターゲットを特定**
（20-50代、単身世帯数がエリアにネット広告を実施）

■ まちなか自習室利用要因分析（重回帰分析/テキストマイニング）



- ・中高生向けの「まちなか自習室」の利用に影響を与える要素を明らかにし、利用促進につなげるために分析。
- ・利用促進のためには、「夜遅くまで開放している自習室を増やすこと」「カフェまたはワーキングスペースの自習室を増やすこと」が特に重要であるとわかった。

⇒**新規に自習室を開拓する際や、既存の自習室の運用改善に活用**

■ 国保特定健診の受診要因分析（重回帰分析 固定効果）



- ・集団健診の実施条件と健診受診の関連を把握するため、データ可視化後に分析。

・実施日数・実施土日祝日数・がん検診同時実施数が多いほど受診割合が高い傾向が判明

⇒**今後の健診実施にあたって運用方法の改善に活用**

5 庁内への周知・浸透

○分散していたEBPM関連のページを「EBPMポータルサイト」に集約し、アクセス性を向上

The screenshot displays the EBPM Portal Site interface. The top navigation bar includes tabs for '共通' (Common), '1.システム関連' (System Related), '2.掲示板' (Bulletin Board), 'PCヘルプデスク' (PC Help Desk), and '個人' (Personal). The main content area is divided into a 'メニュー' (Menu) section on the left and a 'ブックマーク' (Bookmark) section on the right. The 'メニュー' section contains icons for 'スケジュール' (Schedule), 'Chatluck', 'Teams', '全庁版kintone', 'KOBE AI PORT', '施設備品予約', '掲示板', 'ワークフロー', '久元市長の部屋', '市長・副市長日程...', '市会議員アドレス', '人事評価・目標(...)', '職員一覧', '組織図', '座席表', and 'ヘルプ'. The 'ブックマーク' section lists '共有' (Shared) and '個人' (Personal) bookmarks, including '会計事務(会計室)', '要望等の記録', 'EBPMポータルサイト' (highlighted with a red box and a hand icon), '市会議員登庁情報', and '神戸市HP'. A red arrow points from the 'EBPMポータルサイト' bookmark to a detailed view of the site. This view includes the title 'EBPMポータルサイト', a description of the site's purpose, a URL, and a table of contents.

EBPMポータルサイト

EBPM・データ活用に関する各種相談・問合せができる「[データ活用お問い合わせフォーム](#)（一仮想ブラウザで開く）」を用意しています。
データ活用での事前検討や、実際の取り組みの仕方など、お気軽にお問い合わせください！
URL : <https://kobecity.form.kintoneapp.com/public/37ab26e432f1b3722fb836674fa0a2971a99df2984c19d74ff40f6341bf158c4>

目次

- [神戸市データ利活用方針・ガイドライン](#)
- [統計・データ](#)
[神戸の統計](#)、[政府統計の窓口\(e-Stat\)](#)、[神戸データラウンジ](#)、[庁内統計情報リンク集](#)、[神戸市の住民基本台帳データ](#)
- [データ分析ツール・使用方法](#)
[GISポータル](#)、[KDDI Location Analyzer](#)、[Tableau](#)、[神戸データラウンジ（使用方法）](#)、[R](#)、[オープンデータ](#)、[神戸データアカデミー](#)、[経済波及効果分析ツール](#)
- [政策立案のための参考資料](#)
- [行政機関・民間企業等による分析資料](#)
- [その他](#)

○ナレッジの共有のため、EBPMポータルサイトを構築。全庁におけるEBPM推進のツールとして活用

神戸市データ利活用
方針・ガイドライン

神戸市
データ利活用方針

神戸市
データ利活用
ガイドライン

統計・データ

神戸の統計

政府統計の窓口
(e-Stat)

神戸データラウンジ

庁内統計データ

神戸市の
住民基本台帳データ

データ分析ツール
使用方法

庁内GIS

KLA

Tableau

神戸データラウンジ
(使用方法)

R

オープンデータ

神戸データアカデミー

経済波及効果分析
ツール

政策立案のための
参考資料

政策調査に関する包
括的委託業務

政策にかかる
委託調査

政策立案に寄与する
学術論文の調査

企画調整局政策課
による分析レポート

大学への調査委託
業務

行政機関・民間企業による
分析・データ等資料一覧
(調査・データ・学術論文)

神戸市の
EBPMの取組

- 年度当初に、EBPMの推進などの説明を**19局室全ての副局長・政策課長などに個別に実施**
- PCロック画面、庁内掲示板、データラウンジコラム欄、各種研修**などを通じて全庁職員へEBPMの取組を周知

【19局室・個別周知】

2022年度は、DXチームで、スマートシティ、EBPM、庁内DXの説明を、19局室全ての副局長・政策課長などに個別に行い、併せて意見交換を実施

2023年度は、政策課で、基本計画策定、人口減少対策、EBPMの推進の説明を、19局室全ての副局長・政策課長などに個別に行い、併せて意見交換を実施

2024年度も、政策課で、基本計画策定、EBPMの推進の説明を、19局室全ての副局長・政策課長、各区长・副区长などに個別に行い、併せて意見交換を実施

2025年度は、DXチームで、局室区DX推進リーダーの活用についての説明を、19局室全ての政策課長・係長などに個別に行い、併せて意見交換を実施

【PCロック画面を活用した周知】



【データラウンジ・コラム欄での周知】



【庁内掲示板での周知】



- 「2025年度予算編成通知」や「政策会議の周知」、「次期基本計画策定に向けた議論」において、各局室区に対しデータやエビデンスに基づいた政策立案（EBPM）を徹底するよう依頼（財務課などとの連携）

【2025年度予算編成通知】

各局室区長様

行財政局長
企画調整局長

令和7年度予算編成の方向性について（通知）

本市は、東京一極集中や孤独・孤立、地域社会の希薄化、長引く物価高騰や気候変動による自然災害の増加など、多くの政策課題に直面しています。

また、全国的な少子・高齢化に伴い、都市のスポンジ化等が顕在化していくことが想定され、今後は、データやエビデンスに基づいた政策立案（EBPM）により、人口の減少幅をできる限り抑制するとともに、人口減少時代にふさわしいまちづくりを進めていくことが必要です。さらに、神戸市版将来人口推計（神戸市版将来人口推計）を踏まえ、人口減少時代にふさわしいまちづくりを進めていくことが必要です。

【次期「基本計画」策定に向けた議論】

今後、本市をスマートシティとして、データやエビデンスに基づいた政策立案（EBPM）を徹底するよう依頼（財務課などとの連携）

（1）情報の収集、インプット

- 各局室所管分野における将来像や将来推計等についての情報を再度確認（必要に応じて取得）して下さい。

※ データ取得については必要に応じて企画調整局政策課データ利活用担当までご相談下さい。

（参考）・別紙「神戸人口ビジョン抜粋」

- 神戸人口ビジョン（小学校別将来人口推計等）

ワークブック：神戸市版将来人口推計 (kobe-dashboards.com)

- EBPMポータルサイト

神戸市：EBPMポータルサイト (kobe.lg.jp)

- 別添「令和5年度庁内議論照会結果集約」

- 別添「中長期の社会課題に関する調査」

【2025年度政策会議の各局室区説明資料】

政策会議について

前期のエントリーにあたって

特に留意していただきたいポイント

- 既存施策 ⇒ 事業効果の分析やニーズに基づく、選択と集中（施策の整理や重点化）によるボリュームUP
 - 新規施策 ⇒ 個別事業の予算要求ではなく、施策全体の方向性や柱を定め、予算要求（後期）に繋げる
- ✓: データに基づいているか ✓: 費用対効果はどうか ✓: 局として重点を置きたい部分はどこか

提案事例

【既存施策】

▶ 子育てしやすい市・神戸（R5前期）

子ども施策の考え方

経済的支援の拡充

既存施策の一環として、重点化するポイントを整理

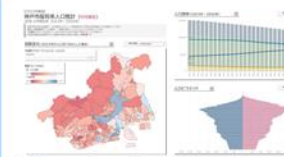
EBPMのためのツール・活用事例の紹介

EBPMのためのツール・活用事例を少しだけ紹介します！

- ✓: 神戸市版将来人口推計
- ✓: R
- ✓: ダッシュボード
- ✓: 学術論文

神戸市版将来人口推計

神戸市が独自に算出した将来推計人口

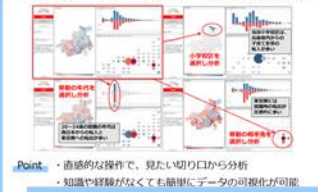


活用できる場面

- 計画への反映、スケジュールの見直し、施設の再編、サービス提供範囲の見直し

ダッシュボード

様々なデータの可視化、一覧化による分析



Point

- 直感的な操作で、見たい切り口から分析
- 知識や経験がなくても簡単にデータの可視化が可能

R

分析ツールを用いた政策効果の測定



庁内GIS

地理空間情報に関する様々なデータの管理・分析



Point

- 他局のものを含め、様々なデータを重ねて分析できる
- データはTableauなどのツールにも活用できる

活用できる場面

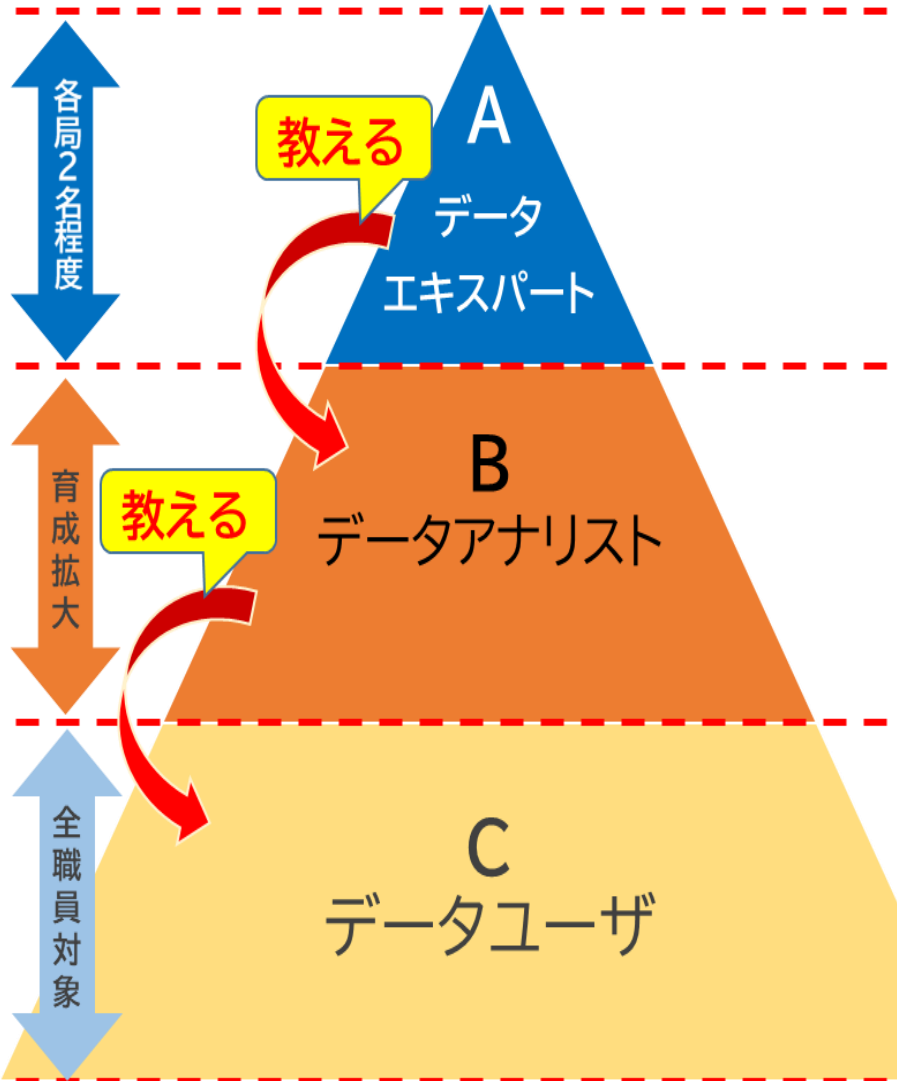
- DX推進（地図上での一覧管理の電子化）、他の分析ツール（ダッシュボード等）への二次利用

6 データ利活用人材の育成 ～戦略と育成状況～

神戸市データ利活用人材育成戦略（2021～2025）

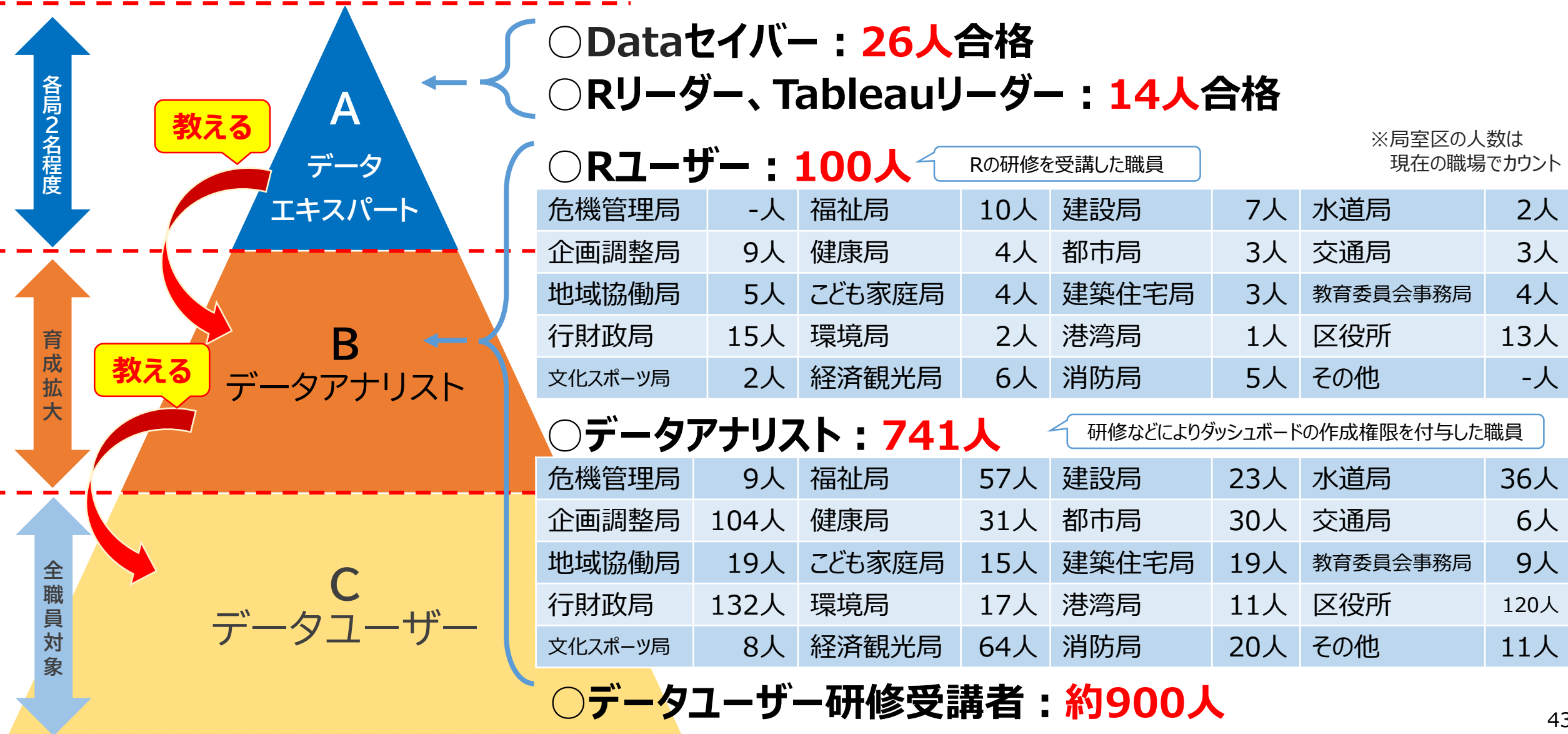
神戸スマートシティ

○戦略的に人材育成を実施。ゼロから始め、A・データエキスパート、B・データアナリストで約900人の人材を育成



データ利活用能力		研修等			2021	2022	2023	2024	2025	延べ
○RやPython等プログラミングで政策評価や業務改善等できる ○AIやRPA等新たな技術使った業務改善ができる ○BIツールやGIS等を活用し、行政データを使ったより高度な分析ができる		○Dataセイバー ○Tableauリーダー研修 ○Rリーダー研修 ○Tableauプレップ研修 ○オンライン自習		D S	+ 3	+5	+8	+5	+5	26
				T L					+3	3
				R L					+11	11
○BIツールやGIS等を使って、行政データの可視化、分析ができる ○RやPython等を使って簡単なデータ分析ができる ○計量経済学の因果推論に基づく論文を批判的に読める		○データ分析スキル習得研修（導入編・実践編） ○データアナリスト研修 ○データアカデミー（GIS、KLA等の活用） ○統計研修（中級） ○オンライン自習		T	+11	+80	+133	+197	+320	741
				R	—	+19	+30	+18	+33	100
○作成されたダッシュボードを使いこなし、データ分析や政策形成ができる ○行政データの取扱い及びセキュリティ研修を受講し、一定のITリテラシーがある ○データ利活用の必要性を理解する		○政策評価を学ぶ研修 ○先行論文調査活用研修 ○ダッシュボードを活用した政策立案研修 ○統計研修（基礎） ○階層別研修 ○セキュリティ等研修 ○オンライン自習			—	—	+150	+250	+540	940
					※全職員に向けて動画配信中					

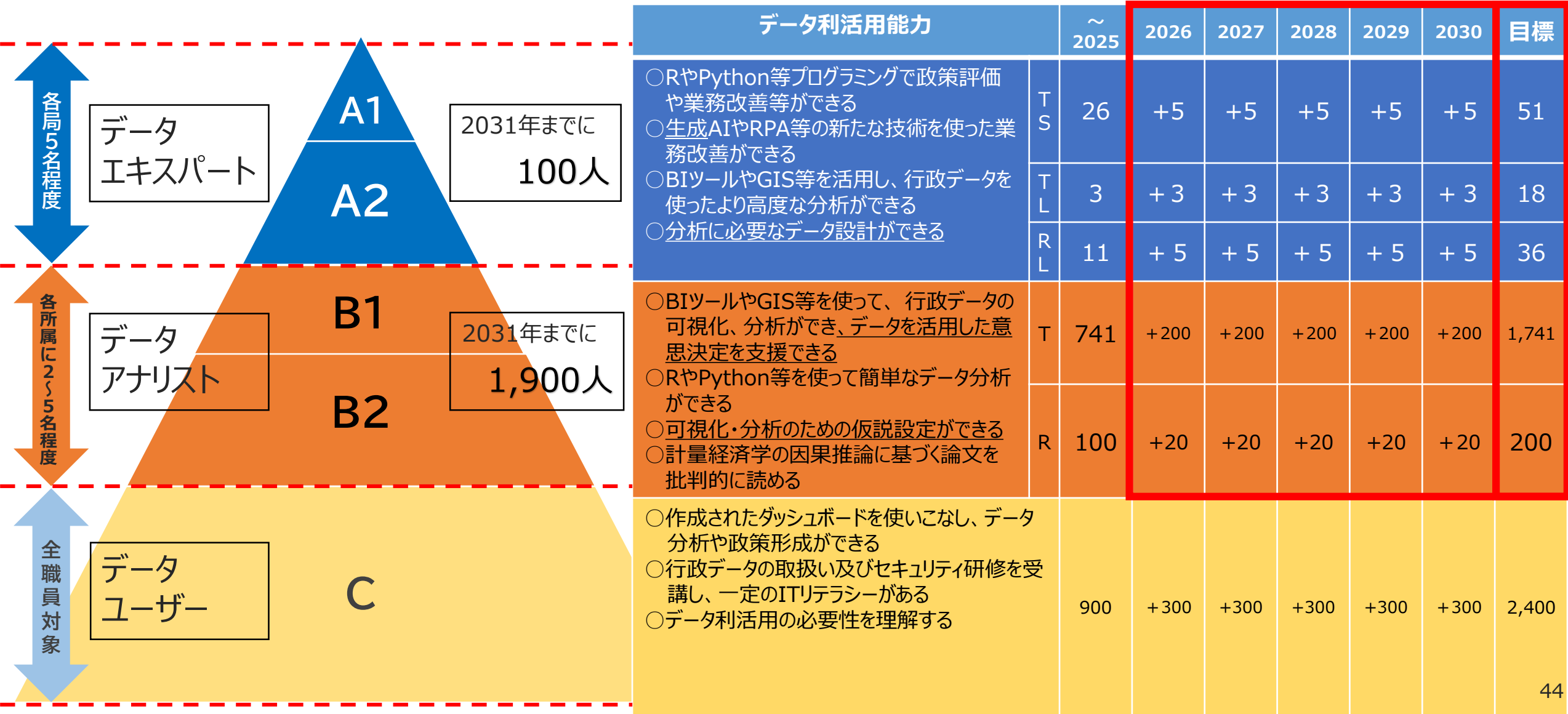
○若手職員を中心に積極的な研修への参加があり、各局室区のデータ利活用人材の育成が進んでいる。



新たな神戸市データ利活用人材育成戦略（2026～2030）

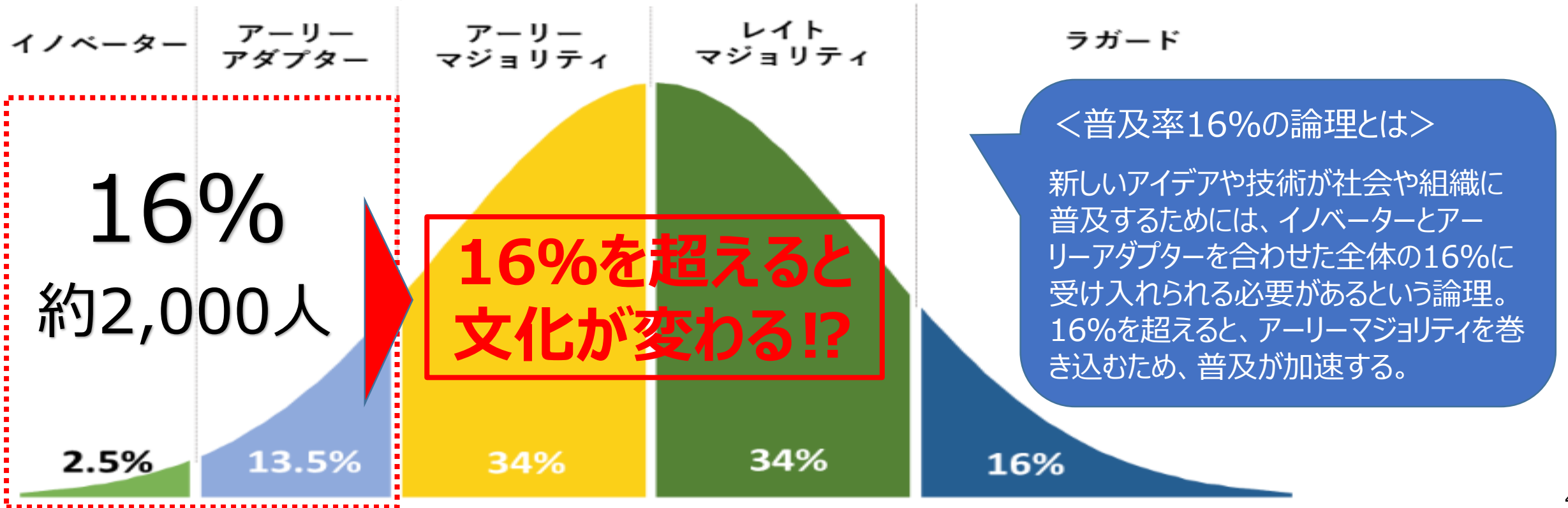
神戸スマートシティ

- A・データエキスパート、B・データアナリストで、PC配布職員（12,000人）の16%、**約2,000人以上の育成**を目指す。
- 「点のスキル育成」から「学習する組織（仕組みとして回る人材・組織・仕事のエコシステム）」へ繋げるステージとして位置づけ



- 将来の目標（あるべき姿）としている「庁内でデータ利活用が当たり前になっている状態（データ駆動組織）」を想定した人材育成戦略とする。
- 人材育成数の考え方については、理論的に有効なアプローチとして、イノベーター理論（ロジャースの普及理論）の考え方にに基づき、組織に新しいアイデアや技術を浸透させるのに必要な**普及率16%を目指す**。理論では、**16%を超えると普及率が加速**する。
- 具体的には、次のフェーズの5年間（2026～2030）で、A・データエキスパート、B・データアナリストを合わせて、PC配布職員（12,000人）の16%、**約2,000人以上の育成**を行う。

【イノベーター理論（Rogers, 1962）】



2025年度 実施の研修の取組状況（2026/3/31時点）

神戸スマートシティ

○職員が自ら講師をすることで、数多くの研修が実施可能となった。20種類以上の研修を行い、**1,000人以上**の職員が参加

殆どの研修
を職員自ら
実施

内容			時期	定員	受講者数	備考
Tableau	A1	Dataセイバー	前期・後期	5人	5人	
	A2	Tableauリーダー研修	8月～	5人	3人	※ もくもく会で学習をフォロー
	B1	Tableauハンズオン研修（応用）	12月～	15人	11人	※ 5日間実施
		DX推進リーダー育成研修	10月～	60人	80人	※ デジタル戦略部主催（ハンズオン研修担当）
	B2	Tableauハンズオン研修（基礎）	8/21・9/3	60人	63人	※ 7/25で募集打ち切り（募集期間：～8/7ㇼ）
		庁内インターンの受入	9月～11月	2人	3人	※ 5日間実施
		各局室区別ハンズオン研修	随時	100人	128人	※ 企画:15人、文書室:8人、デジ戦:32人、税務部:37人、経済:36人、生保:14人
		新規採用ハンズオン研修	2月	30人	19人	※ 新採第2部研修（希望者）
	C	課長級研修	2月	50人	54人	
		EBPM基礎研修	6/25	30人	32人	※ 6/16で募集打ち切り（募集期間：～6/18ㇼ）
		地域協働のフィールドワーク参加者向け研修	6/24	30人	30人	※ 地域協働局主催（ダッシュボードの見方研修を担当）
		階層別研修（新採、昇任時等）	4月～	400人	約400人	※ 新採研修・新採第2部研修（約200人）、昇任時研修（約200人）
R	A2	Rリーダー	10月～	5人	14人	
	B1	データ分析スキル習得研修（応用）	10～12月	30人	18人	
	B2	データ分析スキル習得研修（基礎）	7～9月	30人	32人	※ 6/18で募集打ち切り（募集期間：～6/30ㇼ）
GIS	B1	庁内GIS研修（応用）	10/3	30人	16人	
	B2	庁内GIS研修（基礎）	7/3	30人	33人	※ 6/16で募集打ち切り（募集期間：～6/18ㇼ）
KLA	B2	KLA研修	9/10	30人	41人	
統計	B1	統計研修（中級）	10/15、22	30人	41人	※ 9/26で募集打ち切り（募集期間：～10/10ㇼ）
政策立案	B2	生成AIを活用した政策立案研修（試行）	1/14	20人	12人	※ 政策課、調整課内で実施
論文調査	B2	先行論文を活用したEBPM研修	11/6、1/7	40人	55人	※ 3回実施（29人）＋政策立案研修（ロジックモデルの作成、26人）
オンライン	C	データ利活用導入編（方針・ガイドライン）	10/6～/31	全職員	9,947人	※ オンライン研修、全職員対象

※ この他、学習時間を選ばない取組として、自主的勉強会（KTL）やUdemy（Tableau、R等の自習）の貸し出し制度などがある。
※ 上記は企画調整局政策課主催の研修であるが、この他、各局においてデータ利活用研修が実施されている（例えば、税務部や健康局など）

7 事例紹介

政策立案

市民周知

マネジメント

未利用市有不動産検索ダッシュボード

未利用市有不動産一覧のデータを使って未利用地の場所や周辺状況を地図上に落とし込み、未利用地情報の検索に役立てた。

使用したデータ

・kintoneアプリの未利用市有不動産一覧

作成したきっかけ・課題

・事業用地を探す場合、「特定エリア内」や「大きな道路周辺」などの条件が付されるが、上記一覧では検索ができず、課題がありました。また、庁内GISは市内全域を俯瞰することが困難で、広域から土地を探す作業には不向きでした。

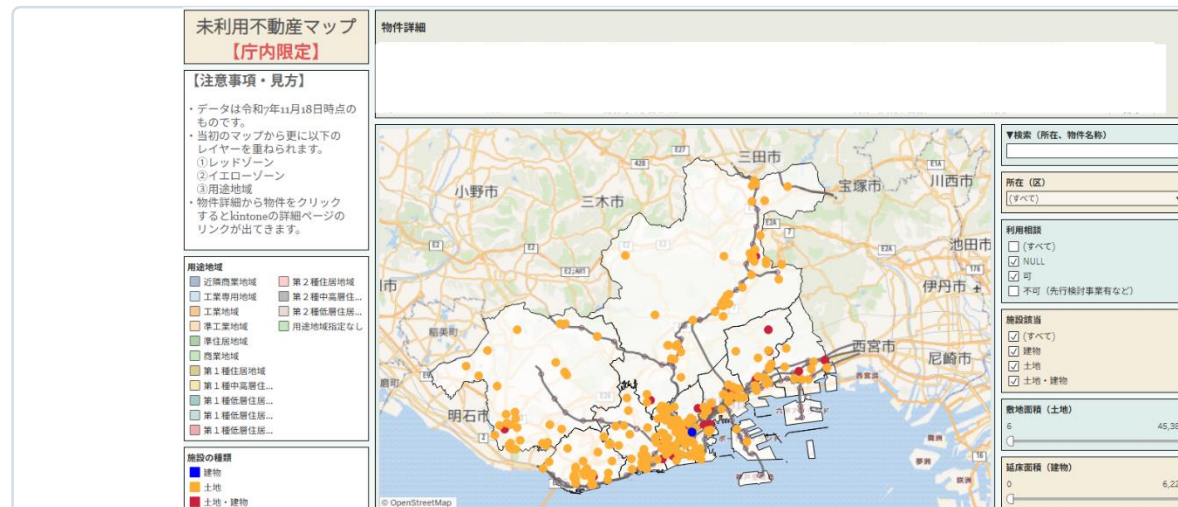
・市内全域を俯瞰しながら周辺状況が把握できるツールがあれば、条件に合う未利用地の検索が容易となるため本マップを作成しました。

作成してわかったこと・効果

・Tableauには多彩な機能があり、面積での絞り込み機能や用地地域エリアの表示機能を追加できたことで想定以上に候補地選定が容易となりました。また、本マップから未利用市有不動産一覧にも遷移できるため、マップには表示しきれない詳細な物件情報も把握可能です。

（直近の活用例：「特定道路に面している災害備蓄倉庫用地」「高潮被害や土砂災害の可能性がない文化財の保管場所」）

作成したもの



地図上で、用途地域別や面積別に未利用不動産（建物・土地）を探すことができる

特定健診・特定保健指導分析ダッシュボード

健診に関するデータ、住基データ、中学校区の境界データを結び付け、地域ごとの特徴や健診の実施状況を区・中学校区単位で可視化し、健診・保健指導の対象地域や実施方法の最適化に役立てた。

使用したデータ

- ・特定健診・特定保健指導に関するデータ
- ・住民基本台帳データ
- ・中学校区の境界データ

作成したきっかけ・課題

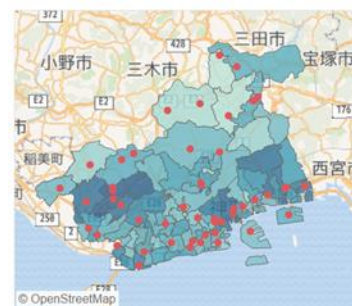
- ・地域ごとの健診受診率等に違いがあるものの、既存のデータだけでは、その背景を十分に深掘りすることが困難でした。
- ・健診に関するデータと人口・地域データを結び付け、地域の特徴や健診の実施状況の違いを詳細に把握する必要がありました。

作成してわかったこと・効果

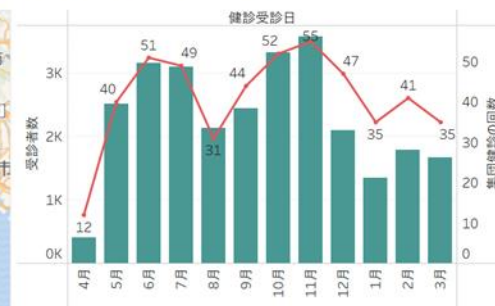
複数のデータを一つのダッシュボードにまとめることで、**地域差につながる様々な要素を多角的に把握**できるようになりました。
区・中学校区単位で対策のターゲットを明確にし、**実施会場や日程、指導手法等の最適化**に活用できました。

作成したもの

中学校区別対象者数・集団健診会場



月別受診者数（年代）・集団健診回数



最寄り会場の対象者数

集団会場名_最寄り	対象者数
JA兵庫六甲垂水支店(オアシス会館5階)	1,350
松が丘ビル3階(明舞地区)	213
須磨パティオホール(健康館3階)	2,997
深江会館	542
すずらんホール	948
レバンテホール	1,392
生活文化センター2階	822
灘区役所5階	2,317
	3,122

受診者数×集団健診会場

集団健診会場	集団健診の回数	受診者数	1回当り受..
兵庫県予防医学協会健診..	18	1,350	75
セリオ光の広場	3	213	71
地域医療ホール	43	2,997	70
西区役所4階	8	542	68
健康ライフプラザ3階	14	948	68
灘区役所5階	22	1,392	63
須磨区役所2階	13	822	63
東灘区役所5階	37	2,317	63
レバンテホール	52	3,122	60

まちなか自習室候補地選定（GIS:Jstat-map）

既存自習スペース・学校・若年人口のGISデータを重ね合わせ、中高生が立ち寄りやすく既存施設でカバーされていない地域を把握し、新たな自習室の開拓先選定に役立てた。

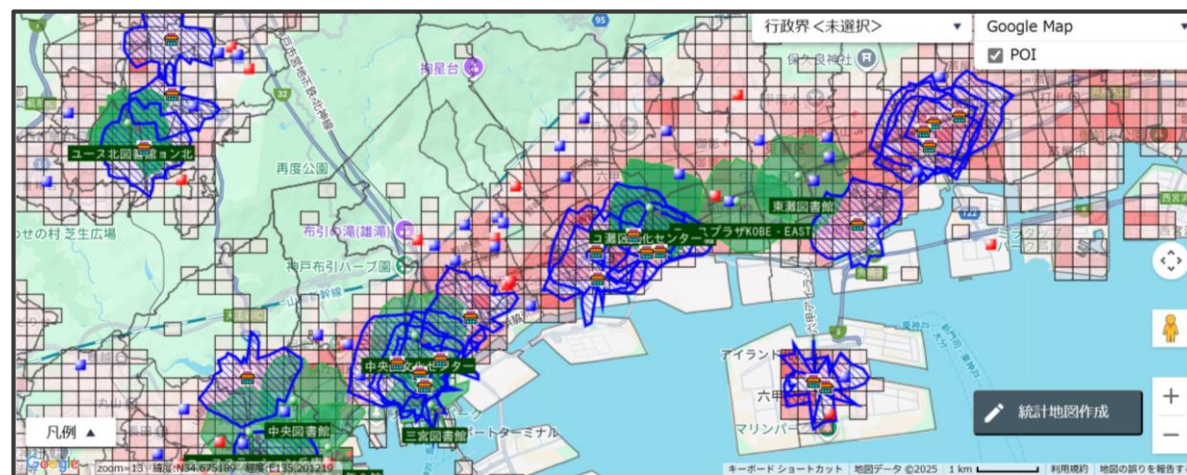
使用したデータ

- ・既存の自習スペースと学校の位置データ
- ・0～14歳の居住人口分布データ
- ・各施設から徒歩15分圏内の到達圏データ

作成したきっかけ・課題

- ・まちなか自習室を設けるにあたり、どの地域の店舗を開拓すれば中高生が立ち寄りやすいかを検討する必要がありました。
- ・図書館やユースステーション等の既存施設、学校の位置、中高生が多く居住する地域を多角的に捉え、既存の自習環境が不足する地域を客観的に把握することが課題でした。

作成したもの



徒歩15分圏、学校位置、若年人口メッシュを重ねた候補地検討マップ（画面イメージ）

作成してわかったこと・効果

中高生が多い一方で既存の自習スペースから離れている地域を把握し、店舗開拓の委託事業者へ候補地域を示す資料として活用しました。既存施設との重複を避けつつ、学校や居住人口、徒歩圏を多角的に確認することで、より利用しやすい場所への設置を検討できました。

コベカツ検索ダッシュボード

活動場所や活動内容からコベカツを探せるダッシュボードを作成。スマホにも対応し、中学生が自宅付近にある興味のあるコベカツをすぐに見つけるようにした。

使用したデータ

- ・コベカツ約1,100クラブの活動内容・活動場所等の情報
- ・市内中学校および活動場所の位置情報

作成したきっかけ・課題

- ・市内の中学生やその保護者を対象に、コベカツ（約1,100クラブ）をわかりやすく紹介する必要がありました。
- ・活動内容だけでなく、居住地から通いやすい場所にある活動を、地図上で直感的に検索できるようにする必要がありました。

作成したもの



神戸市全体から検索・地図を拡大縮小



選択した中学校を中心に、近い場所の活動を検索

作成してわかったこと・効果

コベカツ特設サイトに掲載し、分かりやすい情報発信を実現した。中学生自身が入りたい活動を探せるよう、市民向けにダッシュボードを公開して活用しています。庁内だけでなく、市民に向けた分かりやすい情報発信にも活用されています。

神戸市ホームページ・FAQ管理ダッシュボード

ホームページ管理データとFAQデータをを用いて、閲覧数や解決率を組織別に共有し、ページとFAQの見直しに役立てた。

使用したデータ

- ・神戸市ホームページ管理データ（ページ別閲覧数、所属情報など）
- ・神戸市FAQデータ（閲覧数、解決率など）

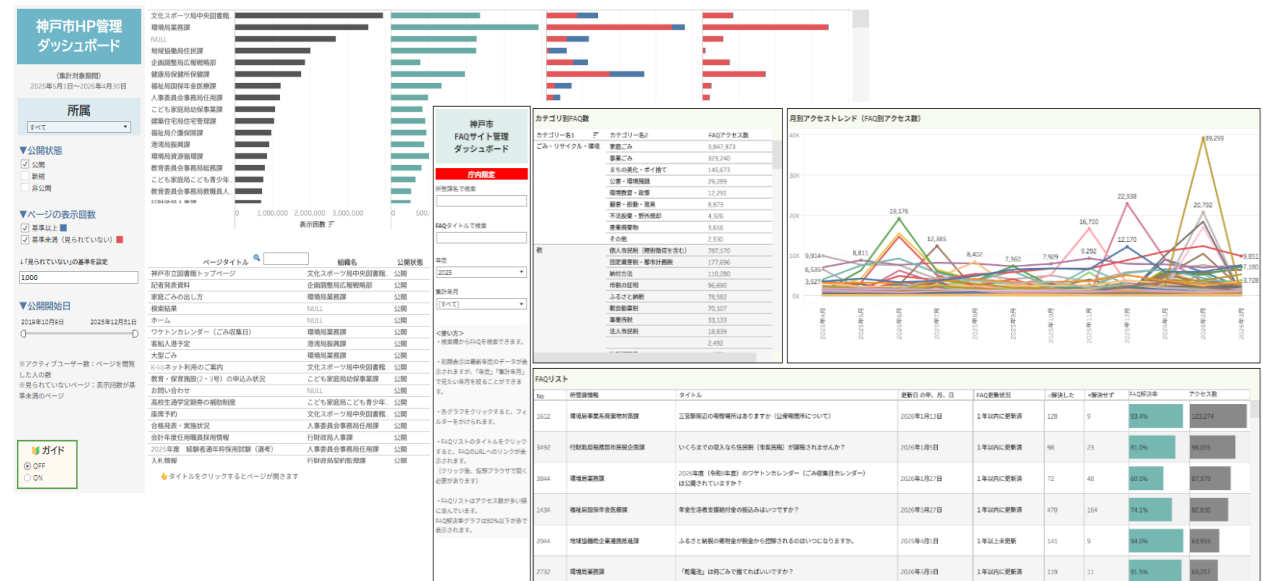
作成したきっかけ・課題

- ・ホームページのページやFAQについて、必要性や内容の適切さを各所属が継続的に見直す必要がありました。
- ・一方、判断材料となる閲覧数やFAQの解決率はExcelデータで提供されており、傾向を直感的に把握しにくいことが課題でした。データを見直しにつなげやすい形で庁内共有する方法が求められていました。

作成してわかったこと・効果

閲覧数やFAQの解決率をグラフで分かりやすく把握できるようになり、各所属がページやFAQの見直し対象を選びやすくなりました。局・部・課の組織単位で絞り込めるため、部署ごとの利用実態や改善候補を把握し、庁内で共通認識を持ちながら見直しを進めやすくなりました。

作成したもの



ホームページ管理と市民向けFAQ管理の2つのダッシュボード（画面イメージ）

滞納者納付状況ダッシュボード

収滞納システムのデータを用いて分納中の滞納者を一覧化し、未納や未納の兆しとなる納付遅れを色で判別できるようにした。

使用したデータ

- ## ・収滞納システムのデータ

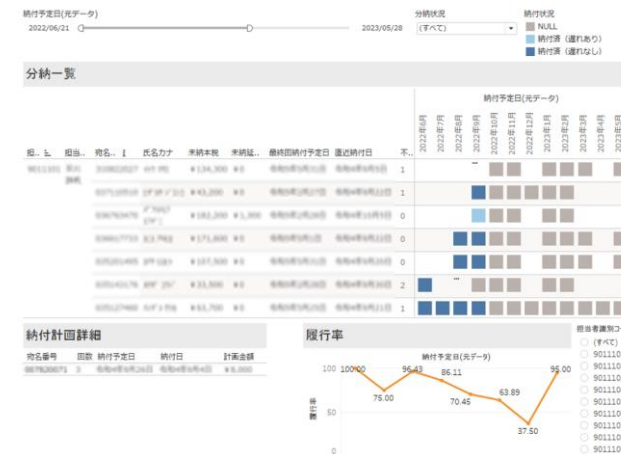
作成したきっかけ・課題

- ・分割納付中の滞納者を一覧で管理できるものがなく、各担当者がExcelなどで個別に管理していました。
- ・納付状況を確認するために、1件ずつ滞納者を検索したうえで画面を何度か展開させる必要があり、確認に時間がかかっていました。

作成してわかったこと・効果

未納や未納の兆しとなる納付遅れを、色で簡単に判別でき、素早い対処が可能になりました。ベテラン職員の意見を取り入れながら作成することで、より便利なダッシュボードにブラッシュアップできた。これにより神戸市の収収確保に寄与しました。

作成したもの



分納中の全滞納者の一覧、選択した滞納者の納付計画詳細、履行状況を一画面で確認するダッシュボード

国民健康保険料徴収支援ダッシュボード

ダッシュボードで**滞納者データ**を見える化し、**迅速かつ効率的な徴収業務**につなげられるようにした。

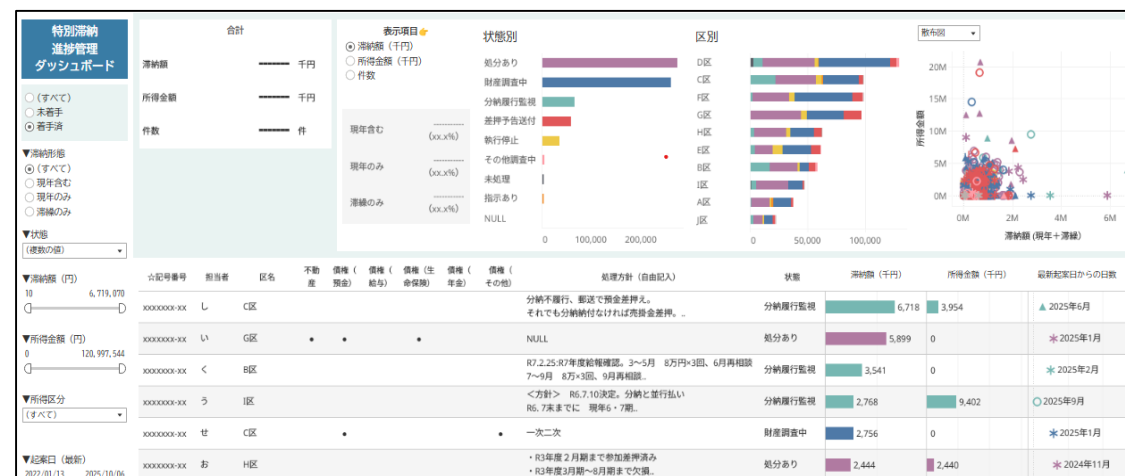
使用したデータ

- ・国民健康保険システムのデータ

作成したきっかけ・課題

- ・国保料の徴収事務ではExcelを用いて管理を行っていたが、必要な情報を特定しづらいという課題がありました。
- ・また、滞納者の情報をまとめて効率的に確認したいという現場からの意見がありました。

作成したもの



全滞納者の状況を一画面で確認するダッシュボード

作成してわかったこと・効果

滞納者データをダッシュボードで見える化したことで、職員が必要な情報を容易に確認できるようになりました。これにより、迅速かつ効率的な徴収業務へとつながることが期待されます。

生活保護業務ダッシュボード

ケース管理・訪問実績などの業務データをつかって、担当状況や進捗を共有し、**ケース管理**や**訪問業務の管理**に役立てた。

使用したデータ

- ・ケース管理データ（区、担当者、ケース類型など）
- ・訪問計画・実績、申告書提出、就労支援の進捗データ

作成したきっかけ・課題

経験の浅い職員が多く、異動サイクルも短いため、支援や管理のノウハウが蓄積・継承されにくい状況だった。

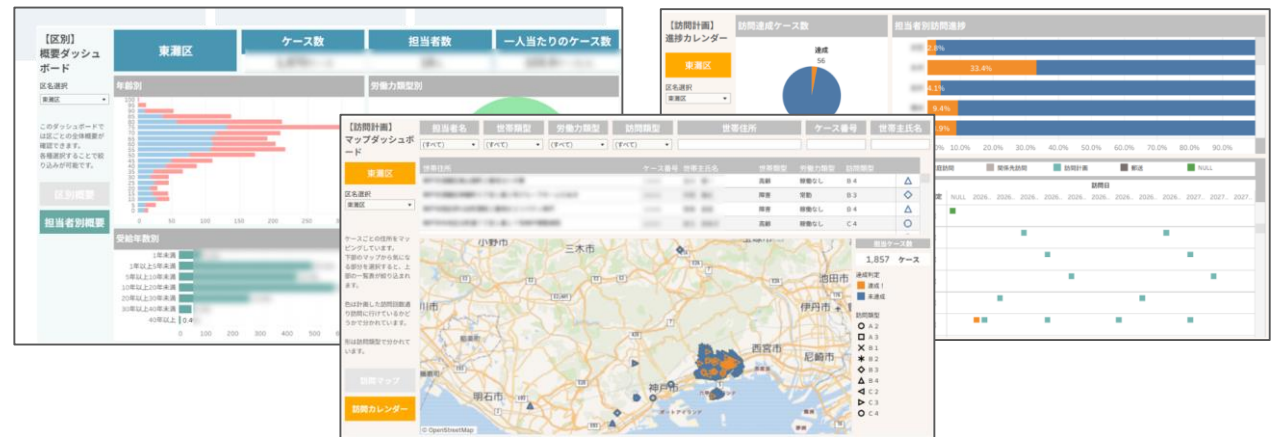
また、訪問計画やケース管理の方法が区ごとに異なり、担当状況や進捗を組織として共通の視点で把握することが課題だった。

作成してわかったこと・効果

2026年6月から全区で共有し、類型別の担当ケース数や訪問実績を組織単位で管理できるようになりました。同じ指標・画面を利用することで、業務のばらつきの縮小とノウハウ共有を進めていきます。個人情報担当ケースのみ表示し、上司には必要な閲覧権限を設定しています。

作成したもの

生活支援業務ダッシュボード



ケース概要・訪問計画等を確認できるダッシュボード

道路境界明示申請ダッシュボード

kintoneの道路境界明示申請データを用いて、申請の時間・方法・エリア・進捗を共有し、**人員配置の検討と確実な案件管理**に役立てた。

使用したデータ

- ・kintoneで管理している道路境界明示申請データ
- ・申請日時、申請方法、対象エリア、担当班、進捗状況など

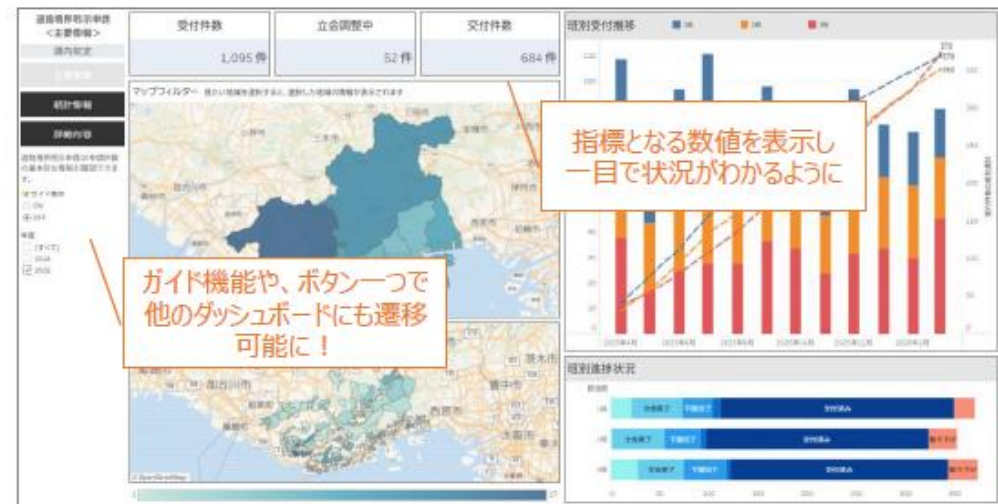
作成したきっかけ・課題

- ・2025年から申請データをkintoneで管理し始めましたが、各班の繁忙期や対応件数、曜日・時間帯による申請の偏りは分析できていませんでした。
- ・蓄積したデータを人員配置や区・エリアの担当割り振りに活用するとともに、進捗を共有して対応の抜け漏れを防ぐ仕組みが必要でした。

作成してわかったこと・効果

曜日・時間帯による申請数の違いを把握し、繁忙に応じた人員配置を検討できるようになりました。エリア差も確認でき、区・担当班の割り振りに活用できます。指標と申請一覧を同じ画面で確認できるため、案件の進捗把握が容易になり、対応の抜け漏れ防止にも役立てられるようになりました。

作成したもの



申請件数・時間帯・エリア・担当班・進捗を確認できるダッシュボード（画面イメージ）

8 情報発信 ～プロモーション～

全国のデータが調べられる
ダッシュボードを公開中！

神戸市HP



神戸データラボをクリック



ここからアクセス！



視察等の受入れ

(2026年7月6日現在)

神戸スマートシティ

- 2022年度以降、**神戸市のプレゼンスを向上**と**他都市への貢献を目的**に、積極的に視察等の受入れを行ってきた。
- 申し出があれば積極的に受入れを行い、結果として**受入れ件数は約380件**（今後の予定も含む）
- 2024年には、デジタル監も視察で来神。講演の件数も増え、複数のメディアに掲載（最近では、iJAMPに掲載）

自治体等
視察対応

230件

講演・講義

98件

取材等
メディア対応

53件



○デジタル庁の**オウンドメディアに若手職員が出演、「デジタル庁ニュース」等で配信**

1 4人の神戸市職員が語る「行政×データ利活用」のリアル（5月23日配信開始）

2 神戸市が実践した収税業務改革×データ利活用とは？（6月20日配信開始）

神戸市が実践した「収税業務改革×データ利活用」 とは？ 行政×データ利活用②



あらゆる取り組みを進め、 神戸市を“データ駆動組織”に

神戸市が目指しているのは、単にデータを使う自治体ではなく、データをもとに学び、判断し、変わり続けるデータ駆動組織です。

データ駆動組織：
意思決定や業務の改善、政策の立案などを
直感や経験ではなく、データに基づいて行う組織



デジタルツイン スパコン富岳を
活用した災害時避難シミュレーション

オープン
データ 141 データセット

SaaS型都市OS

スマートこうべ

年間 115 万PV

7分野
46プロジェクト

スマートシティ
プロジェクト

ペーパーレスの推進
(無線LANの導入)
紙使用量(2017年比)
57.8%削減

業務効率化

ドローン 測量・点検・広報・防災

AI RAG搭載 庁内FAQ
1,500アクセス/日

キャッシュレス
126か所

生成AIチャットを
12,000人で利用

包括的
AI
条例

神戸データラウンジ
全庁共有
ダッシュボード 178件

データ利活用方針
・ガイドライン策定

政策効果分析
Rユーザ 100人

統合型GIS
利用
職員数 1,500人/月

Data StaRt
Award
3年連続受賞

データアナリスト
740人達成

データ利活用
EBPM

住基データによる
独自将来人口推計

本日はこの部分
をご説明しました！

神戸スマートシティ

神戸市のDXの取組

2026.04 ver.

DX人材

内部人材育成 DX
リーダー 219人

外部人材活用 23人

スマート自治体 フロントヤード・バックヤード改革

スマート区役所
バックヤード
業務集約

業務アプリの内製
2,300アプリ

RPA
業務削減
27,008時間
(年間)

行政手続のスマート化
スマート化率
(オンライン化) 71.9%

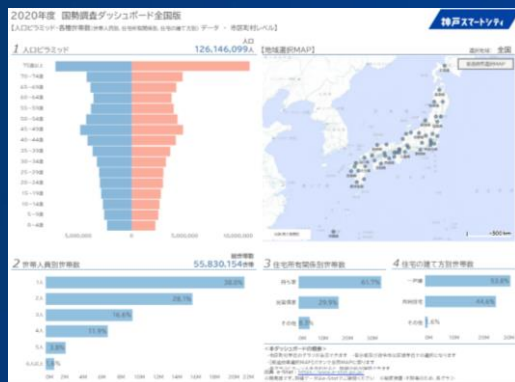
e-KOBE
利用者アカウント 職員アカウント
51万 2,400

システム標準化
7分野でのカスタマイズ全廃

デジタルデバйд対策
支援数 32,806人

ご清聴ありがとうございました。

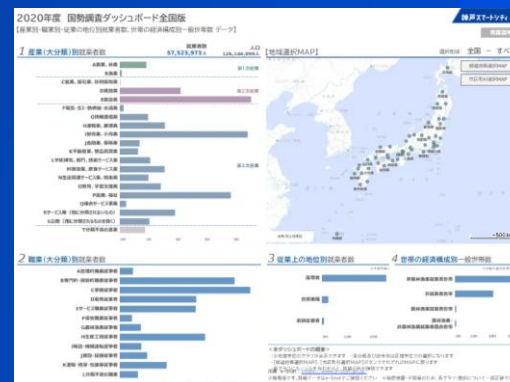
2025年国勢調査の結果も9月末より随時更新！



人口等基本集計（市区町村）
（小地域）



通勤通学分析（市区町村）



就業状態分析（小地域）



人口・就業状態等（兵庫県）



人口の移動状況
（50万人以上の市）



就業状態等基本集計

最新のダッシュボードを ぜひご確認ください！